



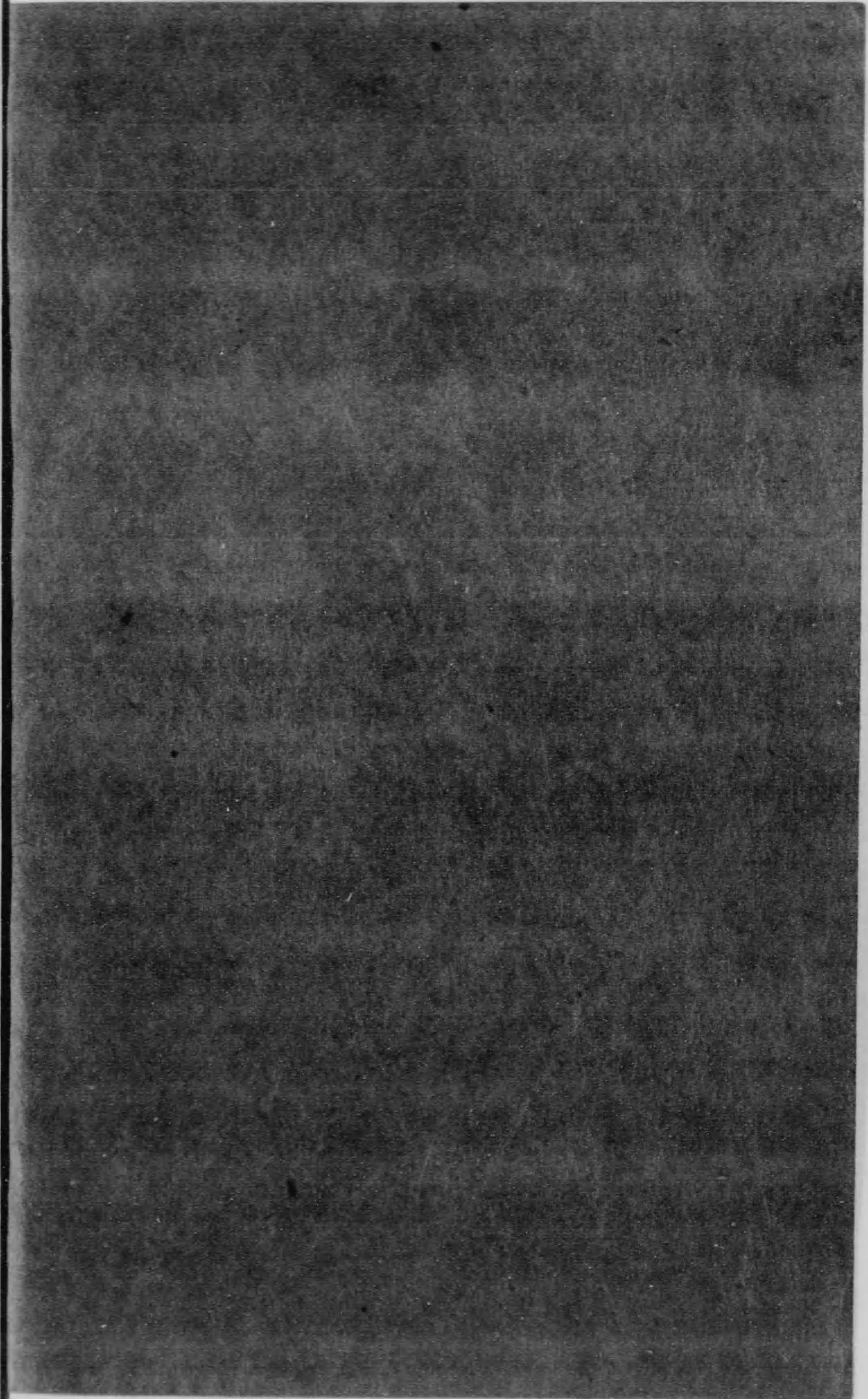
391
131

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始



欠



欠

ーエズの黄^{ゴールツンリゲ}全^{シイ}遺^{シイ}産^{シイ}』は、フアーネスが其^{エリオラムエガシヨシ}集^{エリオラムエガシヨシ}註^{エリオラムエガシヨシ}大^{エリオラムエガシヨシ}全^{エリオラムエガシヨシ}』に收めたる
省畧本によりて見てだにも、尙頗る長篇なるが、其小説其
物とても、通例チョーサーの作なりと言ひ傳へられたる『ガ
メリン物語』“The Tale of Gandlyn”の翻作にして、筋立は我徳
川期の稗史などに似たる事件本位の荒唐なる物語なり。
所謂田園小説風の戀愛譚を本體としたるものなるにも
拘らず、復讐、殺人等の残忍なる事變多く、沙翁の此喜劇と
は、少くとも趣味上には、相通ふ所なし。ロッチの此翻案小
説の初版は一五九〇年に出で、其再版は一五九二年に出
でたり。再版は、表題を『ロザリンド』と改めて、「ユーフィー



エズ、云々」を其別稱となせり。故に、一説に、然るは沙翁の此作が大好評を博したりし證據にして、改題は其好評を利用せしに外ならざるべしといへり。

此小説の獻呈辭デアケイション中に、作者ロッチは、此作の主として航海中の無聊を紛らさんために書かれたるものなる由を言ひ、各行句の、毎フロに怒濤の間に綴られ、作意上の喜怒哀樂の、時に暴風の爲に妨遏せられたりし由を語れり。地名と人名と大體の筋立とは、沙翁は、主として此小説中より借り來れるものゝ如し。女主人公ロザリンドの名はいふまでもなく、アーデンといふ佛國內の大荒林の名も、ガニミ

ード、エリエナ、フィービー等の名も、いづれもロッチの此小説中に見えたり。又、沙翁に外題を思ひ附かせたる原句にてもあるらしき「if you like it」といふ句さへも、ロッチが緒辭中に在り。沙翁は此作の場處ロカチを歐洲のいづことも明示しをらざれど、ロッチの小説には、初めよりボルドーと斷りあれば、佛國內なること明かなるが、其佛國內の林中に猛獅いでて旅人を襲ふといふ荒唐なる作意も、沙翁が借り來れる通りに、既に原作中に在り。但しオードリー、ジャック、タッチストーンなどいふ人物はロッチが作中には其形跡なし。又、沙翁のオ、ランドーは原作のロセーダーに

當り、オリブーはサラヂンに當り、シリヤはアリンダに、シルギヤスはモンテナスに當れり。

或は、ロッヂの此小説を脚本化したるものは沙翁の作以前に在りて、沙翁は寧ろそれを改修したるに過ぎざりしならんといふ説を爲す者もあり。されどもそれは確證なき一種の推測たるに過ぎずといふ。

外題を「*As You Like It*」としたる理由に就きては、學者必ずしも其解釋を一にせず。或は、作意、筋立の心行くばかり愉快にして楽しき趣き多く、事件のとん／＼拍子に運びて、最後にめでたく團圓するは恰も娛樂本位の俗の好尚

に適したるものなれば、かく名づけしにて、すなはちお最良さまがたの「お好み向き」の喜劇といふ義なりと解したるもあり。或は、此作意は、見やうによりて深くも淺くも解し得べし、そは觀者の心々の判斷に一任するの意、すなはち「お好み通りに」又は「お好きなやうに」の義なりと解したるもあり。或は、更に臆測を進めて、獨逸のチークの如く、沙翁が其競争者たりし劇作家ベン・ジョンソンが屢々彼れの作の破格なるを諷刺せしに答ふるために「君は、ともすれば、予が作をば喜劇の正格に合はざる俗劇なりといはぬばかりに嘲笑せらるゝことなるが、成程さもあるべ

し、現に此作の如きが其一例にてもあるべし、観客たちのお好み通りといふ作意なり」と洒脱に戯れて答へたるならんと解したるもあり。されどジョンソンが沙翁の作意を諷刺せしは、其實、此作の上演せられし以後の事なれば、此臆測は事實に違へり。

按ふに、内外とも、劇又は通俗書の表題の如きは、廣く人口に膾炙せる語句に因みて名づくるを通例とす。俚諺、流行語又は古語を適用せし例最も多し。沙翁の如きも、*“Measure for Measure”* *“Much Ado about Nothing”* *“All’s Well that ends Well”* など、屢々好んで俚諺を用ひたり。此作の外題の如きも、お

そらく當時の一の流行語なりしならん。又、流行語の習ひとして、其意味がいろくくに轉用せらるゝに適したりしならん。さすれば、之を譯するにも、いろくくに解し得らるゝやう物しおく用意ありて然るべきが如し。現に、前記ロッヂの緒辭中にも、*“if you like it”* といふ句あり、又、本作の閉場詞中にも *“to like as much of this play, as please you”* といふ句あり。前者は「お氣に召し候はゞ」又は「御意に叶はゞ」の意、後者は「お氣に召しまする限り何卒お最下されますやう」の意なり。本來、*“to like”* は「故に」とも「通りに」とも「まゝに」とも働く語なり、されど我國語にては今まで譯し來りし

如く「御意のまゝ」とするか、「お氣に召すまゝ」とするか、「お好み次第」とするかより外に工夫もなければ、予は、現代語調との釣合上、第二のを採用することゝしたり。「御意のまゝ」とのみにては、やゝ前記の複雑なる意味を暗示するには不足あるが如く思はるればなり。

専門俳優の興行用にも、又素人の餘興用にも屢々歓迎せらるゝ脚本なれども、此作は沙翁の最傑作の一にはあらず。然れども、彼れの喜劇中、かばかり純粹に樂觀的に、暢氣に、陽氣に、快活に脚色せられたるはまたあらずといふ

點に其特色を存して、彼れが作中の最も愉快なる喜劇の隨一とせらる。すなはち其聲價は『エニスの商人』、『から騒ぎ』、『第十二夜』などと、伯仲の間なれど、全曲を通じて喜歌劇めく情調のみ豊かにして、些も悲劇らしき趣向の存在せざる點彼等とは選を異にせり。而して其森林を背景とせる舞台面に富めるとは、此作をして、『テンベスト』及び『真夏の夜の夢』と共に、所謂戶外演劇の臺本たるに適合せしむるが故に、近年に至りては、素人間に、ますます、歓迎せらるゝ氣味あり。要するに、こは高雅なる一種のお伽芝居にして、理想もしくは寫實、象徴若しくは問題等の論

議を以て律すべき作にあらざると論なし。随つて筋立其物のみに就いていふ時は、我淨瑠璃又は草双紙のそれらに類し、徹頭徹尾、夢幻世界の出来事にして、多く言ふに足らざれども、評して詩的嬉戲の大祭禮、詩的談話の大饗宴ともいふべき沸くが如き愉快なる而も高雅なる滑稽味に至つては、管に我東洋文藝中に其比を見出だす能はざるのみならず、西歐のそれの中にも、かゝる例は甚だ希有なりとす。故にゲオルグ・ブランドスの如きは、此作の動機を揣摩して、之を作者沙翁が漸く大都會生活の虚偽と輕薄とに壓いて、其少年時代の放浪的精神の再發を感

じ、若し能ふべくば美しき且つ自由なる自然の風物の間に一切の俗的羈絆を脱して、悠々自適せんを夢想しつゝありし事に歸せんとせり。さればブランドスは、作者の厭世的傾向は、此醇乎として醇なりとも見ゆる喜劇中にだに、既に多少現はれをれりとなし、此喜劇を作して後、幾ばくもあらずして彼の厭世的公子ハムレットを書くに至れる作者なれば、流石に全然たる嬉戲世界に流連し荒忘する能はざりしなるべし、其證據には、ジャッケスといふ、少くともかゝるロマンス風の喜劇中の人物としては曾て前例なき一種の悲觀家を捻出し來りて、樂天家群の間

に出没せしめ、頻りに皮肉なる人生批判を口にせしめ、暗に續き來らんとする四大悲劇の前觸れを勤めしめたり、といふ意味のことをいへり。

ブランドスの此推測は、沙翁の製作動機を論定したるものとしては必ずしも重んずるに足らざれども、ハムレットとジヤックスとの間に幾分の連絡あることは否むべからず。又、かゝる異彩の性格を喜劇中に挿入して、喜劇に異趣味あらじめしことの沙翁の獨得たることも否むべからず。然れどもジヤックスは、正當に謂ふ厭世的人物たるよりも寧ろ此甘過ぎたる喜劇に一滴の淡き苦みビタを加

へん爲に挿入せられたる藥味式の人物にして、タッチストーンが月並の「甘きフル」たるに對して、此れは彼の『リヤ王』中の「皮肉なるフル」と同型のフルたることほゞ明かなり。學者の作意評は往々にして穿鑿に過ぎたり。

時代風俗の反映として豫め留意しておくべき點二三あり。其一は、此劇に反映せられたるエリザベス時代の、今を隔る三百數十年前たるにも拘らず、我國の風俗より見れば、明治十年度前後に相似たるものあることなり。封建制度の漸く滅び失せんとして、所謂文藝復興の本場たる外國

(伊太利)を崇拜する傾向の頗る熾んなりし時代にして、猫も杓子も學者の口真似をなし、古典知識を銜耀せりき。序幕中のロザリンドとシリヤとの問答をはじめとして全曲に互る應對の語の殆ど悉く警句的なるは、當時に所謂リバーチー式にして、是れ將た時代好尚の反映たるに外ならず。第三幕第二場に於けるタッチストーンの似而非三段論法の如きも、同じく論理學の珍らしがられし頃の面影にして、『ハムレット』中の墓掘男のそれと同技巧の作者の筆すさびたり。

或は決闘條規に對する諷刺の如き、如何に騎士道の衰頽

して形式の末に墮し了れるかを示すものたり。或は有名なる「人生七期」の譜の如き、簡なれどもよく其頃の男性の一期を叙寫し盡せり。若しくは、例の有妻者の宿命としての額の角に關する諷刺の如き(第三幕第三場)是れ將た我國の風俗よりすれば、數百年前のそれに似たるよりも、明治二三十年以後のそれに似たりともいふべからん。嘗ても言ひし事なるが、沙翁作の、今尙、馬琴、三馬、京傳、種彦等の作よりも現代に親しみ深きは、必ずしも其作品としての優劣にのみ歸因せざる所以を考ふべきなり。

此作が一種の田園傳奇パストラル・ロマンスたることは既に前段にいへり。随つて此作に於ける作者の立場は、愉快なる詩趣と高雅なる喜劇味とを發揮するに在りて、理窟や寫生を要とせず。故に高貴の姫達の語が、案外にも、蓮葉なることあると同時に、羊飼ひの老若男女の語が、毎にブランク・ピース(無韻詩句)に物されをりて、例の如き田舎訛りなどは聊かも加味しあらず。作者の用意の存する所を推知すべし。譯文は例のおしなべて、口語體にて物したる結果、此等の用意を明かするに及ばざりしを遺憾とす。

大正九年四月廿四日

於熱海別宅 譯者識

登場人名

前公爵、佛蘭西國バーガンディーの領主、アーデンの荒林中に謫居す。

フレデリック、新公爵、兄公爵の所領の篡奪者。

アミエンス
ジャッケス
謫居中の前公爵に隨侍せる貴族。

ル・ポー、新公爵の侍臣。

チャールス、新公爵の抱へ力士。

オリヴァー、前公爵の老臣たりし故士爵ローランド・ボイスの長男。

ジャックスト・ボイス、オリヴァーの第一弟。

オ、ランドー、オリヴァーの第二弟。

アダム

オリヴァーの家僕。

デニス

タッチストーン、新公爵家の童坊(道外形)。

サー・オリヴァー・マーテクスト、田舎牧師。

コリン、老いたる牧羊者。

シルギヤス、若き牧羊者。

ウリヤム、田舎娘オードリーに戀慕せる田舎青年。

婚姻の神ハイメンに扮する人物。

ロザリンド、前公爵の女、後に男装してガニミードと假稱す。

シリヤ、新公爵フレデリックの女、後にエリエナと假稱す。

フィービー、羊飼ひの女。

オードリー、田舎娘。

其他、貴族ら、侍童ら、待者ら、獵師ら。

場所

オリヴァーの宅、新公爵の館、其他は悉くアーデンの林中。



(場七第幕二期七生人)

お氣に召すまゝ

第一幕

第一場 オリヴァーの家の庭内

オリヴァーの末弟 オ、ランドーと
老僕 アダムと出る。

オ、ラ アダム、おれの記^{おほ}えてるところぢやア、
斯^かういふ風^{ふう}なんだー親爺^{おやぢ}は、遺言^{ゆゑごん}して、

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

おれにはたつた一千クラウンだけを遺して、さうして、あの兄貴に、(おのしがいふ通り)、祝福をしてやる代り、おれを大事に掛けて育てろとさういつた。それがおれの不幸のはじまりだ。仲の兄のジャケスは學校へ遣つて貰つて、さうして立派な成績を待てるといふ噂なのに、おれは、宅で、土百姓扱ひにされてゐる。いゝや、むしろ家畜並に小屋の中へ押込められてゐるといつたはうが當然だ。だつて、これがおれの身分相應といへるかい、牡牛同然の扱ひを受けてゐるの？ 兄貴の乗る馬のはうが優だ。奴らは足らふく食はして貰つて滑々してゐるばかりか、糞までも仕込まれてゐる、そのために高い給料を拂つて、調馬師まで備つてある。けれども現在の弟のおれは、何の恩恵も受けない、只身體が大きくなるばかりだ。それだけの恩恵なら、掃溜を漁つてゐる宅のどの家畜だつて受けてゐらア。兄貴はおれに何にもくれないばかりぢやアない、自然がおれに賦與した或

物をさへも、おれから奪ツちまふやうな待遇をしてゐる。三度の食事も作男共と一しよにさせて、まるで弟扱ひにはしないやうにして、育て方で以て、出来るだけ、おれを下品にしようくとしてゐる。アダム、これがおれの忍耐の出来ない所以だ。お父さんの精神を受けついでゐるおれだ、いつまでこんな卑屈を忍従してゐるものか？ もう忍耐が出来ない。けれども、どうしていゝかは分らない。

アダム あそこへ旦那さまが、——お兄様が——お見えになりました。

オ、ラ アダム、あつちへ離れてゐて、聞いてゐて見な、どんなに兄貴がおれを侮辱するかを。

アダム 退る。オリゾー出る。

オリ おい〜！ こゝで何をしてゐなさるんだ？

オ、ラ なんにもしちやゐません。何一つ製へることも教へられぢやゐないんで

すもの。

オリ

ぢや何をぶちこはしてゐるんだ？

オ、ラ

神さまが折角お製作になつた惨な弟一疋を、あなたのお手傳ひをして、

ぶちこはして、懶惰者にしようとしてゐるのです。

オリ

何を馬鹿なことを！ もつと眞面目に働きなさい。

オ、ラ

わたしは豚の番人をして、奴らと一しよに、粗穀を食はんけりやならんのですか？ わたしはどんな駄々羅使ひをして財産を亡くしたのでせう、こんな素寒貧になるてのは？

オリ

おい、こゝは何處だといふことを知つてますか？

オ、ラ

えゝゝ、知つてますとも。あなたの宅の庭です。

オリ

だれの前にゐるのだから、知つてますか？

オ、ラ

えゝ、わたしの前にゐる人がわたしを知つてゐるよりも知つてゐます。

あなたはわたしの一番上の兄さんです。あなたが紳士ならわたしを弟だ

と御存じでなくちやならん筈です。あなたは惣領だから、世間の習慣か

らいふと、わたしよりも長者です、けれども其同じ習慣が、飽くまでも、わ

たしをあなたの同胞にします、よしんばわたしが二十番目の末ッ子であら

うと何であらうと。わたしもあなたも同等にお父さんの子です、あなた

は先へ生れたから、お父さんに幾らか縁が近いと言や近いけれど。

オリ

何だと！

と憤激して撲たうとするを、たやすく突放しつゝ、

オ、ラ

だめだよ、兄さん、わたしに叶ふもんですか？

と又かゝつて來るのを取りひしいて、忽ち喉元を掴む。

オリ

(もがきながら)手向ひするのか、奴め！

オ、ラ

奴ぢやありません。わたしは士爵ローランド・ド・ボイスの三男です。ポ

イスがわたしの父です。ボイスともある人が奴を生んだといふ其男こそ奴も奴下司奴です。あなたが兄さんでなけりや、此手でさういふことをいふ其舌の根を引ッこ抜いてしまふまでは、わたしは此手を此喉から離さないだらう。さういふことをいふのは、自分を自分で悪口してるんだ。

アダム 見かれて割つて入る。

アダム お二人さま、まあ〜、まあ〜！ お父さまの事を思しめして、お仲なほりをなさいませ。

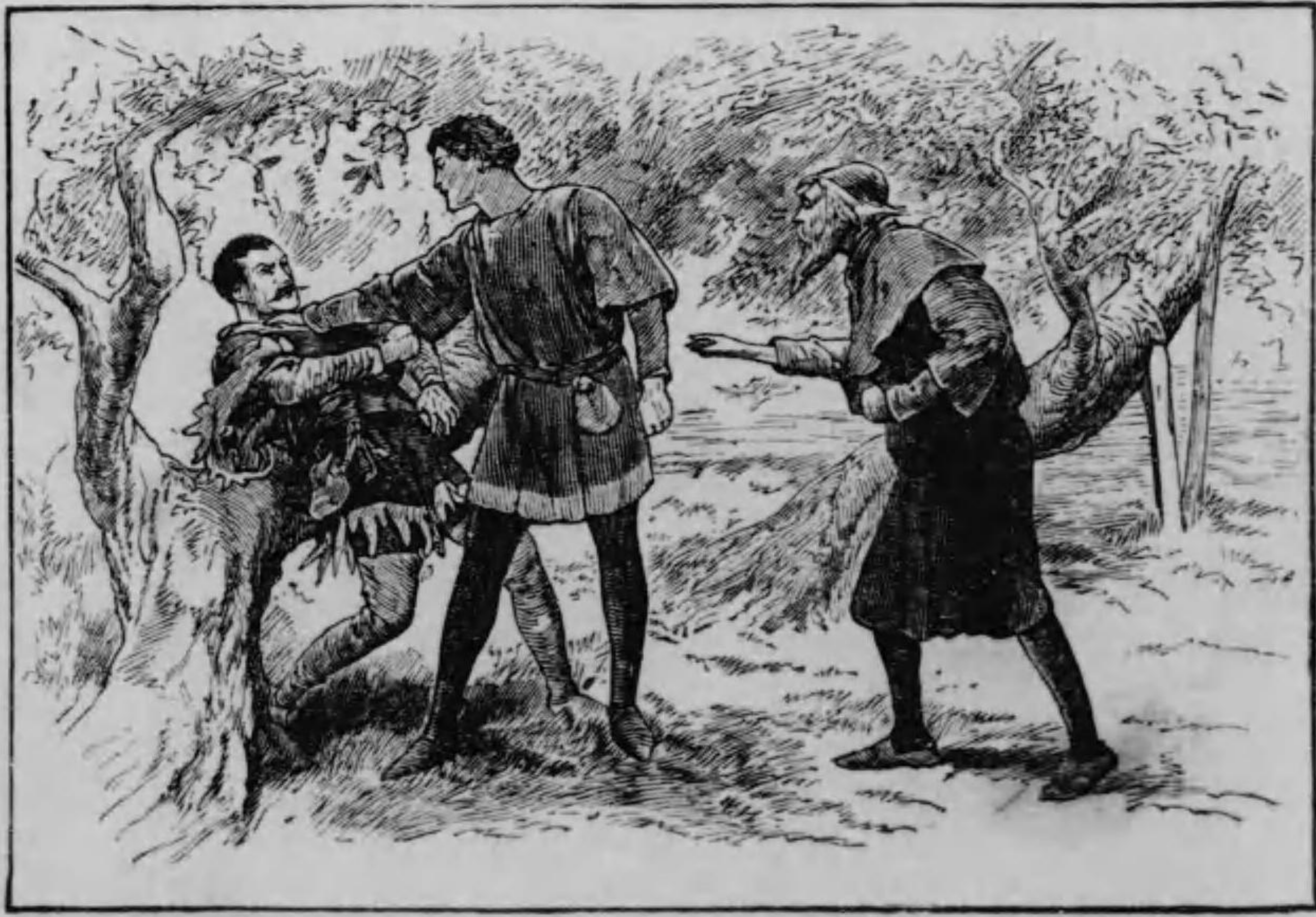
オリ (もがきつゝ) 離せ、これ。

オリ 気が向くまでは離さない。よくお聞きなさい。お父さんは、遺言状で、わたしを十分に教育しろとあなたにお命じになつたのに、あなたはわたしを土百姓同様に育て、紳士らしい修養は、てんで與へないやうに、見せもしないやうになすつた。お父さんから受けついだ精神が生長して来た以上、

オリ もう忍耐しちやゐませんぞ。え、紳士の稽古事を、これから、させて下さるか？ で無けりや、お父さんが遺言状でわたしに遺して下さつたあのほんの少しばかりの財産を分けて下さるか？ ええ？ さうすりや、あれで以て、わたしは自分の運命を買ひます。

と 兄を突離す。

オリ で、どうしようといふのだ？ 乞食をするか、それが失くなつたら？ おや、ま、家へお入り。お



れは最早お前の世話なんかしない。幾らか其文句通りにしてやらうよ。
往ツちまつてくれ。

オ、ラ こつちの権利を主張する以上にあなたを苦める必要はないのです。

オリ (アダムに) ぼけ犬め、汝も一しよに出て行け。

アダム 御褒美は「ぼけ犬」でございますか？ いかさま、長の御奉公で齒が脱けて
しまつた。あ、大旦那さま、どうぞ御安樂に！ 大旦那さまなら、こん
なことはおつしやるまい。

オ、ランドーとアダムと入る。

オリ (見送つて) え、それほどまでに？ 増長しやアがつて！ 今に此無禮を懲ら
してくる。あの一千クラウンはくれてやりやしないぞ。……こら、デ
ニス！

と奥に向つて呼ぶ。 家僕デニス出る。

デニ お呼びでございましたか？

オリ 公爵のお抱へ力士のチャールズがおれに會ひたいといつて來なかつたか？

デニ へい、もうお出でになつてます。是非お目にかゝりたいといつてをられ
ます。

オリ こゝへ呼べ。(デニス入る。オリゾーじつと考へ込んで) さうだ、これが妙法だらう

て。明日の相撲を……

力士チャールズ出る。

チャールズ お早うございます。

オリ や、チャールズさん、新御殿に何か新聞はありませんかね？

チャールズ どういふ新聞も御殿にはございません、舊聞ばかりです。例の前公爵が
御舎弟の新公爵さまにお國をお奪られなすつて、今は亡命者になつてお出
でなさるといふことや、三四人の貴族さんが其お後を追つて、我れと追放

人になられ、其所領地や歳入は悉く新公爵さまのお寶になつちまつたといふことや、随つて亡命者の殖えるのを、わざと放任しておゝきなさるといふことぐらゐのものです。

オリ

前公爵の姫さんのロザリンドさんは、どうしました、お父さんと一しよに御追放ですか？

チャー

いや〜。あの方のお従妹の新公爵さまのお姫さんが、搖籃の頃から御一しよにお育ちなすつたんで、あの方が大好きで、あの方が御追放になるなら従つて行きなさらうといふんです、別れて一人ツきりになるくらゐなら、死んじまふとおつしやるんです。で、あの方は御殿にお留まりです、さうして叔父御さまの殿さまも、お姫さんに負けず、あの方を可愛がつておいでゝす。

オリ

前公爵は何處へ御座らつしやらうといふのだらう？

チャー

もう既にアーデンの杜へお着きで、あそこにお棲ひだとかいひます。さうして陽氣な手合が大勢御一しよにゐて、昔のイギリスのロビン・フッド同様の生活をしておいでだとかいひます。それから、毎日のやうに、陸續とわかい紳士共が参加して、まるで黄金時代よろしくといふ風に、苦勞知らずに、月日を飛ばせておいでなさるとかいひます。

オリ

え、君は、明日新公爵のお前で、相撲を取るのですか？

チャー

はい、さやうです。それで、一寸お知らせに來たのです。内々うけたまはる所によると、御舍弟のオ、ランドーさんが、變名で以て、わたしと勝負をしようとしてござるといふことですが、明朝は、わたしも名譽のために取るんですからね、手や足をおツペしよられるのをまぬかれようてには、よつほど骨が折れませうです。御舍弟はまだ若くもあり、孱弱でもある。あんたの事を思ふから、負かしたかないですけども、自分の名が大事だ

から、やつて來なさりや、負かさないわけにもいかん。だから、あんたを思ふから、お知らせに來たんです。其思ひ立をやめさせなさるが、いゝ。でなきや、どんな恥を掻きなさらうと忍耐へて下さい、自身で求めてさつしやるこんで、わしの好き好んですることちやアないから。

オリ

チャールスさん、ありがたう、其御深切は、きつと今に十分にお報いしますよ。わたしも弟の其思ひ立の事は聞いたから、どうかして止させようと、間接にはいろく骨折つて見たんだが、聴かない。チャールスさん、實際あの野郎はフランスで第一等といふ剛情者なんです、野心満々で、能ある者といへば、だれをでも嫉む、現在の兄のわたしに對してすらも内々わるだくみをしてゐる。だから、存分になさいよ。君があいつの指をへし折らうと、頸骨をへし折らうと、わたしはかまはない。で、よく考へてなさい。生中些ばかり恥をかいいたり、又は十二分の名譽を得なかつたりす

ると、奴は君に毒藥を飲ませかねないよ。何等かの奸計で君をおとしいれかねないよ。何等かの手段で君の命を取つちまはないぢやおかかない奴だよ。といふのは、——殆ど涙ながらにいふのだが——實際、あんな悪青年は又と今ありやアしないからね。兄の口から庇つていつてさうなんだ。

若し有りのまゝをさらけ出すことゝなりや、此顔を眞赤にもして泣出さなけりやならん、さうすりや君は愕いて蒼褪つちまふくらゐのものだ。あゝ、お訪ねして、うけたまはつてよかつた。奴が明日やつて來たら、思ひ知らせてやりませう。奴が二度と一人立で歩くやうだつたら、わたしはもう晴れの勝負はしませんや。ぢや、御機嫌よろしう！

チャー

オリ

御機嫌よう。(チャールス入る)。さ、あのあばれ小僧めを煽て、出してやらう。多分これであいつを押片附けることが出来るだらう。實に、何故だか知らんが、おれはあいつが憎い、あいつ程癪に障る奴はない。けれどもあ

つは品がある、學校へも入れず、學問もさせないけれども、氣立が高尙で、人を魅する徳があつて、世間一般からおそろしく可愛がられてゐる。就中奴に最も親しい宅の家來共に可愛がられてゐる。で、おれは有れども無きが如くだ。が、それも最早長いことぢやあるまい。あの相撲取が綺麗に始末してくれさうだ。つまり、あの小僧をおだて、出掛けさせりやいゝのだ。どれ、とりかゝらう。

入る。

第二場 新公爵の館の前の芝地。

新公爵フレデリックの女シリヤ姫と前公爵の女ロザリンドと出る。

シリ

よう、ロザリンドさん、ねえ、陽氣におなりなさいね。

ロザ

シリヤさま、わたし、これでも、出来る以上に快活にしてゐる積りですの。

それだのにもつと陽氣になれとおつしやるの？ 追放の父を忘れる法を教へて下さいませんか以上、どんな非常な愉快なことをでも、あなたがわたしに記憶させることは出来ませんのよ。

シリ

それで分るわ、あなたは、わたしがあなたを思ふほどにわたしを思つてくれないのが。わたしは、若しかあなたのお父さまの叔父さまがあなたの叔父さんのわたしの父さまの公爵を逐出しなすつたとしてもよ、あなたがわたしと一しよにさへゐて下されば、わたしは、あなたの爲に、あなたのお父さまを、どうにかして、自分のお父さまだと思ふやうにしてよ。あなたもさうしてくれさうなものだわ、若しあなたに、眞實わたしがあなたを思ふ通りに、わたしを思つてくれる心があれば。

ロザ　ぢや、自分の今の境遇を忘れて、あなたの身になつて、愉快にしませう。
シリ　わたしの父は、わたしの外には子供はおりません、此後もありますまい。

だから、父が亡くなれば、あなたが此國の後嗣になるのよ。だつて、父があなたの父さまから無理に奪つた領地は、わたしは大事のあなたへ悉皆お返し爲ようと思ひますもの。え、誓つて、お返し爲ます。若し此誓ひを破つたら、わたしを化物にでも變らせて下さい。ですから、ロザリンドさん、陽氣になさいね。

ロザ　ぢや、これからは陽氣にしませう、さうしていろんな面白い遊びを工夫しませう。……かうつと。男の人を戀して見ることは、どう？

シリ　よいでせうよ、戲謔になら。けれども眞面目に男の人に戀をするのはお止しなさいね。戲謔するにしても、いざといふ場合に赤い顔をしなさい、安全に退却の出来る程度でおしなさいね。

ロザ　ぢや、どういふ遊びをしませう？

シリ　平氣で肅と坐つて、あの運命の車の輪を廻す氣隨者のおせつかい女神を馬鹿にしてやらうぢやありませんか？ あいつが鼻明かされて、これから一切平等に、幸と不幸とを分配致しますといふやうにするために。

ロザ　出来るものなら、さうしたいわ、あの女神の恩恵は、あんまりな見當ちがひですから。澤山にくれるのもいゝけれど、とりわけ女には見さかひなしにくれるんですもの。

シリ　ほんとにさうよ。運命のお庇で美しく生れ附いた人は、きつと不貞節な人よ。さうして貞節に生れ附いた人は、きつと不器量な人よ。

ロザ　あら、あなたは運命の仕事と自然のそれとを混同なすつてよ。運命の領分は世の中に出てからの幸不幸だけです。自然の生れ附きは別なの。

公爵家に仕へる「フル」(阿呆職)タッチストーン、手に自分のと

同型の斑色の奇妙な服装をさせた偶人の胸像を其頭飾りにした一尺餘の棒を持ち、鈴の幾つも付けてある妙な帽子をかぶりて出る。(これは道外方の勤める役である。)

シリ

別なの？ だつて、自然が人を美しく生み附けたからつて、運命の所爲で火傷なんかして見つともなくなることもあるぢやないの？ よしんば、自然が、運命を嘲弄する伶俐らしい辯才をわたしたちに生み附けておいてくれたからつて(といひつゝ、タッチストーンの方を見て)運命めが其伶俐らしい辯舌を中止させるやうに、あゝいふ阿呆をよこしたぢやなくつて？

ロザ

(同じくタッチストーンを見つゝ)なるほどね、こりや自然のはうが負けましたわ。運命が自然の製作へた白痴を使つて、同じく自然の製作へた頓智の邪魔をさせるんですから。

シリ

事によると、これは運命のせいではなく、自然のせいではせうよ。自然がわ

たしたちの持前の鈍い頓智だけで運命を論じるのは無理だと思つて、あの白痴を砥石代りに送つてくれたのかも知れません。「人の愚かさを砥石に、我智慧を研げ」とやらいひますもの。……(ファールに)どうしたえ、お伶俐さん！ どちらへお出かけ？

タチ

お姫さま、お父さまのお前へいらつしやらねばなりませんよ。

シリ

お使ひをうけたまはつて来たの？

タチ

(物體ぶつて)いゝえ、手前名譽に掛けまして、決してさやうではございません。けれども、あなたをお呼び申して来いと仰せつかつて来たのでございます。

ロザ

阿呆さん、お前さんどこでそんな誓言を習つて来たの？

タチ

さる勳爵士の方から習ひました。右の勳爵士さんは、嘗て、其名譽に掛けて、誓言されました、此玉子煎餅はたしかに旨い、此芥子はたしかにまづい

と。が、手前は飽迄も主張します、其玉子煎餅こそまづかつたのです、其芥子こそ旨かつたのです。と申したものの、其勳爵士の誓言が偽誓でもないのです。

シリ どうしてさうなの？ 博識屋さん、その証明が出来て？

ロザ さ、しつかり智慧を働かせて御覧。

タチ お二人とも、さ、立つてお進みなさい。願を撫でて、其お髭を誓言に掛けて、手前をば「わる者だぞ」と御誓言なさい。

シリ (笑ひながら) もしわたしに髭が有つたら、其髭によつて誓言します、お前はわる者だ。

タチ 若し手前がわる者であつたら、其わる者たることによつて誓言します、いかさま、果してわる者であつたら、わる者でもありません。けれどもあなたは、もともと在りもしないもので誓言なすつたんだから、それは頭で誓



シリ ねえ、だれの事をいふの？
タチ お父さまフレデリックさまのお氣に入りのさる人の事で。

シリ

お父さまのお氣に入つてゐりやそれで十分の名譽ぢやないの？ もうな
んにもおいひでない。そんな陰言をいふと、今に酷い目に逢ひますぞ。
なさけないこつた、伶俐な連中が阿呆盡すのを伶俐に批評することさへも
阿呆にや許されぬのか？

タチ

シリ

ほんとに、うまいことをいふねえ。たまに言ふ阿呆の知言をさへ、言はせ
ないやうにしてからといふものは、智者のたまさかの阿呆らしい行ひが尙
と目に立つやうになつた。…あそこへル・ポーさんが來ました。
きつと又いろんな新聞を口一ぱいにして持つて來たのでせう。

ロザ

シリ

さうして、鳩が雛に物を食べさすやうに、それをわたしたちの耳へ押込ま
うとするんでせう。

ロザ

さうしたら、嘸、新聞でお腹が一ぱいになるでせう。
食べ肥つたら、賣物には妙でせうよ。

シリ

公爵の侍臣ル・ポー出る。

ルポー

ル・ポーさん、今日は。何か珍らしいことが有りました？
お姫さま、惜いことに、お見落しになりましたよ、大變に結構なお見物を。

シリ

(わざと聞きながへて) 編み物？ 絹の？ 毛絲の？
え、何でござんすて！ どうお答へしてよろしいやら。

ロザ

お智慧次第、御運次第によ。
でなけりや、宿命の命するまゝに、とごさうい。

タチ

よう／＼！ 鍔細工といふ警句だわね。
いや、憚りながら、警句なら、いつなりと手前方へお買ひ出しにいらせられ
ませう。

ロザ

いつでも品切れでございます。

ルポー

(呆れて) どうも驚き入りましたなア。手前は、面白いお相撲のありました

ロザ のをお見落しになつたといふことをお知らせ申しに参つたのでしたのに。では、せめて其模様をお話しなさいな。

ルポー ちや、其發端をお話しますから、もしかお氣に召したら其後段を御覽遊ばすがよろしい。最も面白い勝負はこれからでございますから。しかも、今に、こゝへ参りまして致しますのですから。

シリ ちや、其、もう濟んじまつた發端といふのを。

ルポー さて、まつ、一人の老人と三人の息子がございまして……

シリ まるで、話し出しは昔話のやうね。

ルポー 骨格の逞しい、風采の立派な、其三人の者が……

ロザ 頸から廣告札をぶらさげて「右の通り普く布達せしめ候ふものなり」ツ。

ルポー さて其三人の中の最年長者が公爵お抱への力士チャールスと相撲ひました。が、チャールスは忽ち其男を抛倒して、其肋骨を三枚まで折りました。存

命は先づ覺束なさうです。二番目の男も同様でした。又三番目も。三人とも倒れたまゝでゐます。可哀さうに其父の老人は手負の伴共に縫り附いて、情けない聲で歎いてゐますので、傍らの者一同が一しよになつて泣いてゐます。

ロザ まあ、可哀さうに！

タチ ルポーさま、お姫さまたちのお見落しのお見物てのはそれですか？

ルポー さうとも、無論。

タチ なるほど、人間はだんく、伶俐になるんだなア。肋ツ骨をおッペしよるのがお姫さんたちのよい見物だてのは、おれ今日はじめて知つた。

シリ わたしもよ、ほんとに。

ロザ でもまだ外に希望者がありますの？ そんな骨を叩き折つてまで奏する野蠻な音楽をまた外に望む者がありますの？ シリヤさま、わたしたちそ

んな野蠻なものを見ませうかしら？

ルボー　こゝにおいてになる以上、いやでもそれを御覽になるわけです。こゝで勝負する筈になつてゐますから。もう其準備をしてゐます。

シリ　(二方を見て) きつと、あそこへ來たのがそれです。ちや、こゝにゐて見ませう。

喇叭の音。新公爵フレデリック、貴族ら、ついでにオ、ランドー、チャールス及び待者ら出る。

新公　さ、はじめい。いくら論しても聽かんのだから、どういふことがあらうと、それは彼れの向う見ずの自ら招くところだ。

ロザ　(ルボーに) あの男がその人ですか？

ルボー　はい、あの男です。

シリ　まア、まだ若いわ！　けれども勝ちさうだわ。

新公　(二女を見て) お、阿女と姪か！　そつと來てゐて相撲を見ようといふのか？

ロザ　はい、お許し下さいませならは。

新公　面白くもなからうぜ、多分。相手が不釣合すぎるから。氣の毒なので、あの青年をいろくくと説諭して止めさせようとしたが、聽かん。お前たちから改めて説得して見たらよからう。

シリ　ルボーさん、あの人をこゝへ呼んで下さい。

新公　それがいゝ。わしは席を避けよう。

と席を離れる。

ルボー　(オ、ランドーの方へ) 相撲の勝負を望まれる御仁、お姫様がたのお召ですぞ。謹んで仰せをうけたまはります。 (とシリヤとロザリンドとの前へ進む。)

ロザ　若いお人、お前さんは力士のチャールスに立合を挑んだのですか？

オ、ラ いゝえ、さうぢやありません。チャールズが一般の人に立合を挑むんです。で、わたくしも、他の手合と一しよに、あの男と力くらべをして見ようと思つたのです。

シリ 若いお人、お前さんはまだ若いのに大膽すぎます。あの男の大力のため、に酷い目に逢つた人たちをば見ましたらう。それを目でも覗、分別でも知つておいでなら、かういふ不釣合な立合は危険だと用心なさるのが當然です。ねえ、御自分のためです、身の安全といふことを考へて、此立合はお止めなさい。

ロザ ねえ、さうなさいよ。さうしたからとて、お名前にははることはありません、わたしたちが此相撲の中止を公爵さまに願つたことにしますから。

オ、ラ お姫さまがたの折角のお言葉に背くのは寔に相濟みませんが、どうか憎い奴だと思ひ遊ばさないで下さい。どうかその美しい、やさしいお目で

わたくしを後援なすつて、勝負させて見て下さいまし。負けたところが、不幸者が、たかゞ一人恥辱を蒙るに過ぎないのです。殺されたところが、いつそ死にたいと願つてゐた者が、只一人死ぬに止まるのです。朋友に迷惑を掛けることもありません、泣いてくれる友だちとてもないので、世間の損害にもなりません、てんで無財産なんですから。只此世の中に生きてゐるといふだけの男ですから、居なくなりや其穴ぐらゐは、すぐ優な人間で埋ります。

ロザ わたしは非力だけれども、此力なりと、お前さんに與げたいわ。

シリ わたしのもよ、此方の、足しに。

ロザ ぢや、お大事に。どうかわたしの豫想してゐるやうでないやうに！

シリ どうぞ思ふ存分お勝ちなさるやうに！

二女退る。

チャー さ、さ、地上へねんねこせいをしたがつてる若い豪傑は何處にゐるんだ？
オ、ラ こゝにゐます。けれどもねんねこはしません、もつと行儀よく立合ふ積りです。

新公 只一番だけだぞ。

チャー (皮肉に) いゝえ、大丈夫でございます。初めの手合せをすら止めると懇々お諭しになりましたくらゐですもの、二度目をお命じにならうやうはございませぬよ。

オ、ラ 嘲弄するのなら、後で。先では口が過ぎませう。さ、お出でなさい。

喇叭を吹鳴らす。

ロザ (氣を揉んで) ハーキュリーズさま、どうぞあの人を守つて下さい！

シリ 人の目に見えないやうになれるものなら、あの強い男の脚をすくひたいわ。

二人相撲ふ。

ロザ おゝ、ま、偉いこと、あの若い人は！

シリ 電光が此目から出るものなら、どつちか負けるかは定つてるのだけれど。

チャールス 投げられる。喝采。

新公 もうよし〜。

オ、ラ いゝや、まだいけません。まだ全力を盡くしちやゐませぬ。

新公 (席を離れてチャールスに) チャールス、どうした？

ルポー 物をいひ得ません。

新公 あつちへ連れてゆけ。 青年、汝の名は何といふ？

オ、ラ オ、ランドーといひます。士爵ローランド・ド・ボイスの三男です。

新公 だれか他の者の子であつたらよかつたになう。汝の父は、世人に敬愛せられてゐたが、おれには始終仇敵であつた。けふの働きも、若し汝が他の血統の者であつたら、満足にも思つたらうが。さよなら。 中々勇敢な青

年だ。あゝ、他の者の子であるといつてくれたらなア！

公爵従者ら、ルポー入る。

シリ

(ロザリンドに) わたしが父でしたら、あんなことはいはないでせうに。

オ、ラ

(獨自的に) 士爵ローランドの三男だと名宣り得るのをこそ名譽だと誇つてゐるんだ。フレデリック公爵の後嗣にするからといつたつて、此名譽を捨てるものか！

ロザ

(シリヤに) わたしの父は士爵ローランドを自身の靈魂のやうに愛してゐました。さうして世人一同も父と同感でした。あの若い人をあの方の息子さんだと知つてゐたら、わたし泣いてまでも止めて、先刻のやうな冒険はさせなかつたでせう。

シリ

ロザリンドさん、ねえ、あの人に謝びませうよ、さうして元氣を附けてやりませうよ。父の邪慳な、意固地な氣質が情けなくつてならないわ。……(オ、

ランドーに) もし、今のお手柄は、みんなの豫想してゐた以上でありましたことよ。若しあなたが夫としても、此通り、人の豫想以上に深切でお在りのやうなら、つれそふ人は定めし幸福であります。

ロザ

あなた(と頸に掛けてゐた金鎖を脱して、恰も其前に跪くオ、ランドーに渡しつゝ) どうぞこれを身に附けて下さい、若しもわたしが運命の神に見離されて事を缺く身の上でなかつたら、もつと何かあげたいのですけれど。……(シリヤに) さ、いらつしやいな。

シリ

えゝ。……(オ、ランドーに) さやうなら、お若い方。
二人行きかける。

オ、ラ

(ぼんやり見送りつゝ) 有りがたうとさへ言へないのか？ 勇氣も分別もみんな抛出されてしまつた！ こゝに立つてるのは木偶の坊だ、生命のない只の棒片だ。

ロザ

(此獨り言を聞きちがへたらしく、見返つて) 呼んでゐるわ。…(獨自的に) おちぶれたので、わたし見識までなくしたのか知ら?…何の用だか聽いて見よう。

(戻つて来て) お呼びでしたの?…もし、ほんとお手柄でしたことね、
投げられたのはあなたを憎がつてゐる者ばかりぢやなくつてよ。

シリ

(戻つて来て) よ、いらつしやいな。

ロザ

はいく。…(オ、ランドーに) さやうなら。

ロザランドとシリヤと入る。

オ、ラ

(恍惚と見送つて) どうしたのか? くわつとして、それで以て舌が重くなつてしまつた! 物がいへない。お姫さんは何か話かして見たさうであつたけれども。おゝ意氣地なしのオ、ランドー。汝は投げられたんだぞ、チャールスにだか、もつとすつと弱い或人にだか知らんが。

ルボー出る。

ルボー

もしく、好意上、君に忠告します、早くこゝをお立退きなさい。君の今日の手柄は十分に稱讚され、喝采され、愛顧されて當然なのだが、公爵は、君のしたことを妙な風に

誤解してお

いでなさる。

一體お氣む

づかしいお

性質なのだ。

どう、おむづかしいかといふことは、そこは一寸いひかねるから、ま、よろしく想像しておいて下さい。

オ、ラ

ありがたう。時に、少々うけたまはりたいたいことがあります。先刻こゝに



おいでになつてゐたお姫さんお二人のうちの、どちらが新公爵のお子さん
ですか？

ルボ

どちらも新公爵のお子ぢやアない、氣立からいふと。が、實際、小さいは
うのお子さんです。もう一人の方は前公爵のお子さんですが、お國を
押領なすつた叔父御さんに引留められて、そのお姫さんのお相手役をなす
つてゐす。お二人の仲のよさは肉親のお姉妹以上です。ところが、最近
になつて、公爵はあの柔和な姪御を憎がりはじめなすつた。其理由はと
いふと、民衆が前公爵を思ふ餘りに、あのお姫さんを氣の毒がり、しきりに
其淑徳をほめたてるからといふに外ならんのです。きつと今に、あのお
姫さんの難儀になるやうなことが突然持上るでせうよ。……ちや、御機
嫌よう。此後世の中がよくなるやうなことがあつたら、改めて御懇親を
結ぶことにしませう。

オ、ラ

御深切の段決して忘却しません。御機嫌よう。

ルボ一入る。

煙から潜り出て火の中へ戻るのか？ 暴虐な公爵のそこから、暴虐な兄貴
のそこへ歸つて往かんけりやならん。……だが、あのロザリンドさんの氣
高さ！

第三場 同じく館の一室

シリヤとロザリンドと出る。

シリ

まア！ どうしたの、ロザリンドさん！ キュービッドさん、どうかしてあ
げて下さいね！……え、口をきかない？

ロザ むだ口はきません。

シリ 成程、むだ口はおきでないでせう、けれどもわたしには口をきいて下さいね。よ、飽満して、頭が逆上となるほど聴かせて下さいな。

ロザ そんなことをすりや、従姉妹が二人とも病人になつちまひますわ。一人は用の口で逆上ツちまふでせう、さうして一人は、既うとうに逆上ツちまつてるのですから。

シリ どうしてです？ お父さまのことを思つて？

ロザ いゝえ、幾らかはそのお父さまの子のことを思つてです。……お、ま、何といふ辛い、刺々した憂き世でせう！

シリ なんの此位は祭禮の悪戯よ、子供たちが投げ附ける栗の毬ですのよ。一寸でも脇路へ踏込めば、すぐ袴にさういふものが搦みつくのは定りよ。着物にくつついたのは拂ひ落すことも出来すけれど、わたしのは、心に、

ロザ

栗の毬が搦みついてゐますの。

シリ 一つエヘンと咳をしたらどう？ 飛び出してしまひさうなのね。

ロザ でも、堰けば堰くほど募るといひますわ。

シリ よう、そんな心持なんか、思ひ切つて抛出しておしまひなさいよ。

ロザ だつて、抛出さうとしても、それがすつとわたしよりも強いのですもの！

シリ お、随分お大事に！ 其うちには、きつとそのお相撲にお勝ちの時も来ませう。……それはさうと、戯談は止して、真面目なお話をしませうよ。

ロザ ねえ、ほんとに、どうしてさう急に好きになつておしまひなの、あの士爵ロランダの末っ子さんをさう？

シリ 父があの人のお父さんを深愛してゐましたもの。

ロザ だからあなたが其息子さんを深愛するといふ理窟が立つたんですの？ そんな風にいへるものなら、わたしはあの人を憎まなけりやならんわ、わ

たしの父さまがあの人のお父さんを憎んだんですもの。けれどもわたし
オ、ランドーさんを憎まないわ。

ロザ どうぞ憎まないで下さい、わたしのために。

シリ 憎まれなからうちやなくつて？ さういふ人柄ぢやなくつて？

ロザ ですから、わたしが好くのですの。わたしが好くんだから、あなたも好
いて頂戴……（一方を見て）あれ、あそこへ公爵さまが。

シリ 腹を立ててゐるらしい目附をして。

新公爵 フレデリック 貴族らと共に出る。

新公 （ロザリンドに） おい、身の安全を思ふなら、大急ぎで支度をして、すぐ出て行
きなさい。

ロザ （驚いて） 叔父さま、わたくし？

新公 うん。此十日間に、若し此館の附近二十哩にうろついてゐるやうだと命

はないぞ。

ロザ （跪いて） 願ひでございます、どうぞ私しの不埒の仔細をお知らせなすつて
下さいまし。若しわたくしが自分を知り、自分の思考や慾望を意識して
ゐますのなら、晝も夢を見てゐたり、氣が狂つてしまつてゐたりするので
なければ、——決してそんなことはないと思つてゐます——若しさうでな
い以上、叔父さま、わたくしは、つひぞかりそめにも、あなたの御機嫌を損
ねるやうなわるいことをした覚えはございません。

新公 さういふのは謀反人どもの定りだ。口でいひわけをするのを聴くと、ど
いつもこいつも美德其者のやうに無罪潔白だ。おれは汝を信じないとい
へば、それで澤山だ。

ロザ でも、それだけではわたくしを謀反人になさることは出来ません。どう
いふ證據がおありですか、おつしやつて下さい。

新公

汝は前公爵の實女だ。それで十分だ。

ロザ

(起上つて)それはあなたが父の領地をお取りにならなかつた時分からさうでした。父を追放なさらなかつた時分からさうでした。血統で謀反する者はありません。よしんば親しい者からは遺傳するといふ例がありますにしても、わたくしには關係がありません。父は謀反人なんかぢやございませぬもの。ですから、どうぞ誤解して下さいませぬ、零落してゐるから、或は謀反でも企むだらうなんぞと。

シリ

(進んで父の前に跪いて) 父上、どうぞわたくしの申し上げることをお聞き下さいませ。

新公

はい、聴きませう。彼女は、お前のために留めておいたのだ。でなけりや、とうに彼女の父と共に放浪させたのだ。

シリ

引留めておいて下さいとわたくしがお願いしたのぢやありませんでした。

御自身のお慈悲でなすつたことです。わたくしはあの方の價值を知るには、まだあの時分は、少過ぎました。けれども今は知つてゐます。若しあの方が謀反人なら、わたくしもさうです。わたくしたちは一しよに寐もし、起きもし、習ひもし、遊びもし、食べもし、何處へ往くにしても、ジュノ

新公

一神の白鳥のやうに、始終一しよにつながりあつて、往きましたもの。あいつはお前なんぞの手に合ふ代物ぢやアない。あいつのあのやさしらしさやあの無口らしさやあの堪忍ぶよさが頗る愚民どもの心を魅するのだ。で、奴等はいいつを可愛想がる。お前は馬鹿だ。あいつがお前の名譽を奪つてゐるのを知らん。お前はもつとすつと立派にも美しくも見える、あいつがゐなくなれば。だから、黙つてゐな。一旦いひわたした嚴命はもう取消すことは出来ん。あいつは追放したのだ。

シリ

ぢや、其嚴命をわたくしにも言ひわたして下さいませ。わたくしはあの

方に別れては生きてをられません。

新公 此馬鹿が！：：ロザリンド、早く支度をしな。時おくれになると、おれの
厳命に二言はない、誓つて死刑に處するぞ。

新公爵、貴族らをつれて入る。

シリ お、ロザリンドさん、あなたこれから何處へ往かうとするの？ 父さま

を交換ッこしませうか？ わたしのを獻げませうか？ ねえ、どうぞ決し

てわたし以上に悲しがつて下さいますな。

ロザ でも、わたしのの方が悲しいわけが多いわ。

シリ い、え、そんなことはないわ。どうぞ機嫌をなほして下さい。父は現在

の子のわたしをも追放したぢやないの？

ロザ 何の、そんなことが。

シリ え？ なくつて？ ぢや、ロザリンドさんには眞實心がないのね、二人の

身は一心同體だと思ふ程の眞實心が。引別けられてゐる氣なの？ え、

あなた別れる氣なの？ い、え。父さまには、わたし別に後嗣を求させ

ることにするのですから、よ、駆落する工夫をして下さいよ、何處へ往くこ

とにするか、何を持つて行くかをさ。此變り目をも、此悲みをも、御自分

一人の身にしようつて、わたしを置きざりにするやうなことをして下さるな。

わたしは、わたしたちに同感して蒼ざめてゐるあの天を誓ひに掛けて、あ

なたが何といつたつて、従いて行くのよ。

ロザ だつて、どこへ往きませう？

シリ アーデンの杜で叔父さんを捜して見ませう。

ロザ でもそれは、あんまり危険でせう、若い女の身で、あんな遠いとこまで旅を

するのは！ 美の、賊を牽くは、金よりも速しといひますの。

シリ わたしは下賤の者の服装をして、顔を黄土か何かで汚しますわ。あなた

もさうなさい。さうすれば、わる者に襲はれるやうなこともなくつて、旅
が出来ませう。

ロザ

それよりか、わたしは竝以上に丈が高いのですから、すつかり男の服装を
したらどう？

腰には立派な短剣をぶらさげて、手には猪突槍を持つて、

さうして——胸にはどんな弱い女心が潜んでゐるにもせい——外面だけ

は勇者顔をして、内實を押しかくして、虚威張をして、強さうにしてゐませ

うよ、世間の多数の臆病な男たちが、實際さうしてゐるやうにね。

シリ

名を何と呼びませう、あなたが男になつたら？

ロザ

ジョーヅ神のお侍童以下の名はいやですから、ガニミードと呼んで下さい

シリ

ね。あなたは何といふ名にするの？

シリ

わたしの身の上で困んだ名にしたいから、もうシリヤではなく、アリエナ

シリ

(さすらへ)としませう。

ロザ

それはさうと、あの道外者の阿呆をお父さんの此館から盗み出して伴れて

シリ

つたら如何？ 旅の間の慰藉ぢやなくつて？

シリ

あれはわたしに従いてなら、世界中をでも歩き廻るでせうよ。あれを伴

シリ

れ出すことはわたしに任せて下さい。さ、早く往つて、寶石や何かを取纏

シリ

めて、一等都合のよい時刻を選んで、追手がかゝつても大丈夫逃げおほせ

シリ

られるやうな途を取ること考へませうよ。さ、斯うして、自分で好んで

シリ

自由の身になるのよ、追放されるのぢやないわ。
二人入る。

第二幕

第一場 アーデンの林中

佛の國境、フランゲルス邊と假定されたる大荒林中の一部、こ
こへ前公爵其腹心の貴族アミエズ其他二三人を從へて出る。
いづれも山林に住んでゐる特殊民らしい服装をしてゐる。

前公

何と、仲間の人たち、謫居生活の兄弟たち、習慣となると、此質素な生活が、
極彩色の華美驕奢よりも却つて氣持がよいではないか？ 嫉妬偏執で充

ちた朝廷よりも此荒れた林のほうが遙かに安全ではないか？ ことゝで感
する辛らさは、たかやアダムの受けた艱苦、季候の變化、例へば、冬の寒風
の氷のやうな牙や其おそろしい怒號の聲ぐらゐるものだ。寒風が來てわ
しの體を咬んだり撲つたりする時に、寒さに縮み上りながら、わしは、いつ
もほゝ笑んで、かういふ。「これは追従ではない。こいつらは、實際のまゝ、
有りのまゝを鋭く感ぜさせてくれる良顧問官だ。逆境はゆたかに人を
利する。逆境は彼の醜惡な毒蝦蟆のやうに、其頭の裡に寶玉を藏してを
る。塵俗と掛けはなれた吾々の此幽居では、木々が物をいふ、清水が書物
の役廻りをする、石や岩が説法をする。何もかもが良い教訓になる。此
生活を變へようとは思はんよ。
アミ
運命の殘虐な待遇をも、さういふ風に、平穩な、愉快な意味に御翻譯遊ばし
て、悠然として御自適遊ばされますのを結構なことゝ存じまする。

前公

どりや、また、鹿狩に出掛けようか？ とはいふものゝ、可哀さうに、あの斑服を被てゐる阿呆どもは、此林の町の本来の土着民であるのなのに、其領域内で以て、雁股の鍬で、あいつらの肥つた臀を射貫くのかと思ふと憫然でもある。

甲貴族

いかにも仰の如く、あの沈鬱性のジャケスなぞは頻りに其事を申してをりまする、其點から申すと、御前はあの暴横な御舍弟以上の押領罪をお犯しなされてゐると斷言致してをります。今日もアミエンズ卿とわたくしとが、櫛の木かげに彼れが横になつてをるのを見かけましたから、そつと其そばへ參つて見ましたが、其櫛は此林中を喧鳴つて流れてをりまする小河の岸邊に、年を経た太い根を流れへ覗き込ませて生えてをる老木でございますが、そこへ一疋の慘な、群離れをした牡鹿の、獵矢で手を負つたらしい奴が、苦みながらやつて參りました。其慘なけだものは、實際、其草衣

が今にも破裂してしまふかと思ひまする程に、えらい勢ひで、腹に浪を打たせて唸りました、大粒な涙が、可哀さうに、ぼたくと、その無邪氣な鼻脇を傳つて流れました。と、其可哀さうな獸めをあつた沈鬱性のジャケスが熟と見つめてをりました、急流の崖ぎはに突立つて、自分も涙をぼたくと落して、河の水蒿を殖してをりました。

前公

で、ジャケスが何とかいつたか？ それを見て、何か教訓めいたことを言つたらう？

甲貴

はい、申しました、いろくさまの比喩を並べました。先づ、鹿が涙で徒らに水蒿を増すのをば斯う評しました。「可哀さうな鹿よ、汝は、世俗がする通りに、無駄な寄附をしてゐる、多過ぎるほど水を持つてる河へ汝の分まで注ぎ込んで、何になる？」と。それから、其鹿が、其天鷲絨仕立の友達に見すてられて、ひとりぼつちだといふのを斯う評しました。「もつ

ともだ。とかく不幸は伴を失ふと。やがて一群の足らふく食つたらしい鹿どもが、前件の鹿のすぐ傍を、暢氣さうに跳廻つて、見向きもしないで、通り過ぎるのを見ますと、斯ういひました。「さうく、駈けて通んな、足らふく食つて、脂ぎつてる手合は。それが當世流だ。そこにゐる慘な破産者なんかを見返る遣はない筈だ」と。かやうに、彼れは、手きびしく、國家をも、都會をも、朝廷をも、いや、人間生一切を、頭から痛罵しまして、人間は、どいつもこいつも、篡奪者だ、暴虐者だ、とりわけ、獸類を、其天賦自然の住所内に於て、脅して殺すなんぞは最も酷いとだと罵つてをります。で、君たちは、彼れを、其冥想中のまゝで、おいて來たのか？

乙貴 はい、其泣いてをります鹿のそばで、同じく泣いて、評をしてをりますまゝで、おいて參りました。

前公 其場處を教へて貰ひたい。わしは憂悶最中の彼れに逢ふのが好きだ。さ

甲貴 ういふ際に、彼れは、最も多く警句を吐くから。すぐ御案内いたします。

入る。

第二場 新公爵の館の一室

新公爵と貴族らと出る。

新公 (怒氣を含んで) だれも知らなかつたといふことがあるものか？ そんなことがあらう筈はない。館のうちに不埒な奴があつて、承知してゐて、させたことに相違ない。

甲貴 お目にかゝつたと申す者は一人もございません。お姫さまのお部屋附の

乙貴

腰元たちは御寝なつておいでのお見受けしたさうでございしますが、早朝に見ますと、お床は藻脱の殻であつたと申します。

御前、あの穢い道外者も、日頃をかしがつてお召使ひになつてをりますあの阿呆めも居りません。お姫さまのお附のヒスピリヤに聞きますと、お姫さまとお姪御さまとが、つい此間お抱へのチャールスを抛げましたあの若い力士の事を非常に賞めておいで遊ばすのを立聞いたことがあつたと申しました。で、彼女は、何處へいらせられましたにせよ、きつとあの青年がお伴をしてゐるだらうと信じ切つてをります。

新公

あの青年の兄を呼べ。其好男子めを引張つて来い。若し居なけりや、兄をこゝへ連れて来い。あいつに命じて捜し出させる。早くしろ。駈落ちした阿呆共を引戻すための探索には、ぐづくしてゐちやならんぞ。

はひ入る。

第三場 オリヅーの家の前

オ、ランドーとアダムと左右より出て逢ふ。

オ、ラ

だれだ?

アダム

おや、若旦那さま? お、若さま! お、大事の若旦那さま! お、先殿

さまのお形見さま! まあ、何でこんなところへござらつしやりますんだ? なぜあんたは生中のお徳なんかあつて、人に好かれなされるのです? なぜさうやさしくつて、逞しくつて、勇敢であらつしやるんだ? なぜあの氣むづかしい公爵さまのお抱へ力士なんかを抛倒すやうな馬鹿アなことをなさいましたのだ? あんたの手柄話はもうとうに聞えて来てをりま

す。若旦那あんたは知らつしやりません歟、或種類の人達には、生中の徳が身の仇になるてとを？ あんたがそれだ。若旦那、あんたの器量、才能は、聖げな、殊勝げな顔をしてゐて、あんたを裏切る悪者でございますぞ。あゝ、ま、何て世の中だ是れは！ 立派な、うつくしいものを身に付けてるのが、それが其人の身の毒になる！

オ、ラ ま、どうしたといふのだ？



アダム

お、不幸なお人！ 此扉の中へ入つちやいけません。此屋根の下にはあんたの徳を妬む敵が住んでゐます。お兄さんが——いや、お兄さんぢやない、が、あの息子さん——でもない——あの方のお父さまとつい申し上げかけた其お方の息子さんだとはいひたくない——其お人があんたの手柄話を聞いて、今夜あんたがこゝへ泊らつしやるのを俟つて、家ごと、焚殺さうと企んでゐなさります。若し爲損すれば、又何か他の手段であんたを殺さうとしてござらつしやります。そのわるだくみを漏れ聞きませんでした。こゝへ入つちやいけません。此家は屠殺場と同じです。こはい、おそろしい處です。入つちやいけません。

オ、ラ だつて、それぢや、どこへ往けといふんだ？

アダム どこへなりと、——こゝだけはいけません。

オ、ラ え？ ぢや、どこへでも往つて、乞食しろといふのか？ それとも、公道で

切取強盗でもしろといふのか？ さうでもしない以上、爲やうがなからう
ぢやないか？ けれども、どんなに窮したつて、そんなことはいやだ。そ
れよりか不倫非道の兄の手にかゝつたはうがい。

アダム

そりやいけません。わしの手にかねが五百クラウンあります。お父さまに
御奉公して、つましくして溜めた金です、齡イ取つて、足腰が不具な用しか
足さなくなつて、人に見離されて、隅ツこへ抛り込まれようといふ時分の
看護婦にしようとしてゐた金です。それを持つていらつしやいませ。鴉
をさへ憫然がり、雀をさへお助けなさる神さま、どうぞ此老人をお慰め下
さい！……さ、こゝに金がございます。みんなさし上げます。お伴をさ
せて下さいませ。齡は取つてもまだ達者でございます。若い時分に血を
沸させる焼酎なんか飲まず、酒アつくな面アして體をこはす悪い病氣に罹
るやうな、不品行もしませなんだから。だから、わしの晩年は健全な冬だ、

霜が降つても順當だ。お伴をさして下さい。どんな御用だつて、仕事だ
つて、若い者竝に勤めますから。

オ、ラ

お、善良な爺よ、昔の忠實な奉公人の生形見といふのはおのしだ。むか
しは義務の爲に汗を流して奉公したものださうだ、報酬なんかの事は思は
ずに！ おのしは今の世には向かない人間だ。今は、だれしも、立身出世
のためにばかり精を出す、さうして出世したりといふと、卽座に怠けはじ
める。おのしはさうぢやない。だが、折角だが、わたしの世話をするのは
朽木に手入れをするやうなもんだ、どんなに骨折つて培養してくれたから
つて、花一つ咲き得やしまいよ。けれどもまア従いて來な。とにかく一
しよに出掛けて、さうしておのしの其若い時分の儲けがなくなつてしまは
ないうちに、何か知ら下賤の生計を捜し當てることにしよう。

アダム

旦那さま、さ、いらつしやいませ、お伴します。此息の根のつゞく限りは、

忠實にお伴します。十七から今日まで、もう約八十年こゝに住んでゐましたが、けふが此土地の見納めです。十七なら、大抵まづ出世口を捜しに出掛ける齡だが、八十では些と晩過ぎる。でも、つまり、旦那さまに御奉公の爲残しをせんやうにして死ぬに越したことはなからうと思つてをります。

入る。

第四場 アーデンの林中

ロザリンドは武家の青年らしく扮装して手槍を持ち、ガニミードと假稱し、シリヤはアリエナと假稱して羊飼の少女らしく扮装し、阿呆職の服装のままのタッチストーンを従へて出る。



三人ともおそろしく疲勞したる體で、互ひにもたれあひ、又介抱し合つて、よたくとして出て来て、とゞめいゝ、離ればなれに木かげに憩ふ。

ロザ

おゝジュピター！ あゝ氣が疲れた、氣が疲れた！

タチ

氣なんざかまはない、脚さへ疲れなけりやいゝんだけれど。

ロザ

(シリヤに聞えぬ程の聲で) わたしだつて、實は、男すがたに恥をかゝせても女らしく泣き出したいくらゐよ。けれども、かよわい者の氣を引立てなけりやならないんだ、細袴は女袴の前では弱腰を見せちやならないんだ、それが世の中の定りなんだ。だから……(大きな聲で) アリエナ、よう、しつかりなさい！

シリ

(なき出しさうな聲で) ねえ、堪忍して下さいね、わたしを。わたしもう逆も歩かれないのよ。

タチ

さア、あんたを金にしろつたつて、そいつア困難でさ、こりや願ひ下げだ、いつぞ堪忍して貰はう。金にするにや元金が要るが、あんたの懐は寒さうだからね。

ロザ

(四下を見て) かうと、こりやもうアーデンの森だね。

タチ

さやう、すなはち是れが噫洞！ ……いよくおれはお伶俐さまだ。家にゐた時分のはうがすつと優だつた。けれども、旅は憂いもの、辛いものだ。

ロザ

その通りよ、さう思つといで。

老人の牧羊者コリンと若い牧羊者シルギヤスと出る

御覽、だれか来た。若い男と老人とが、何かむづかしい顔をして、話をしながら来る。

コリン

そんな風にすりや、尙と女が馬鹿にするわな。

きな踊を踊るもんさね。つまり、人の命は無常だてから、そこでいよ／＼首ツたけとなると、人は無上に馬鹿を盡くすんだらうて。

ロザ

自分で意識してゐる以上の警句といふのはそれだらう。

タチ

居敷を摺り剥かうが、向う脛をへし折らうが、そんなことに頓着しないで洒落れのめすがわしの専門でさ。

ロザ

(これを聞流して歎息しつゝ、歌ふ)。

あゝ、ジョーウ、ジョーウ！

いちらし、あの田舎男、

わが身にぞつまさるゝ。

タチ

わしの身にもだ。といつたものゝ、もうおれのは微だらけだ。

シリ

(弱々しい聲で)ねえ、だれかあの老人に聴いて見て下さいね、お金をやつたなら、何か食べるものをくれないでせうか？ あゝ、もう死にさうだ。

タチ

(立ち上つて、コリンに)おゝい、田舎ッペい！

ロザ

しッ！ 何といふ呼びかたです？

コリン

呼ばつたかね？ お前さまは何だね？

タチ

お前よりは身分のいゝもんだ。

コリン

わしよりもわるかつたら、嘸憐だらう。

ロザ

(タチストーンに)しッ、お黙り。……や、今日は。

コリン

はい／＼、今日は。はい、皆さま、今日は。

ロザ

ねえ、爺さん、どこか休息をさせて、物を食べさせてくれる處が此森の中に

あるなら、案内して貰ひたいね。勿論代價は拂ふよ、好意でさうしてくれ

ば格別だが。こゝにゐる若い娘が、旅疲れで、おそろしく弱つて、息も

たえ／＼になつてゐるのだ。

コリン

お綺麗なお方、あゝ、それはお氣の毒さまなとだ。そのお難儀を救つてあ

げられる身代でわしがあつたらと、自分の爲でなく、そのお娘さんの爲に思ふんだが、わしは他人に使はれてゐる羊飼です、何十疋といふ羊の、其毛の一筋もわしの物ではない。わしの主人は怖しく吝嗇い人で、他人に深切を盡して、後生を願ふやうな人でない。おまけに、今ちようど、其小屋も羊も牧場も賣物になつてゐます。それに、今は不在でもあり、羊小屋には食はつしやる物とては何にもない。が、ま、來て見さつしやい、出来るだけのおもてなしはわしがします。

ロザ

その羊や牧場を買はうといふ相手はだれだね？

コリン

つい先刻こゝにゐたあの若い男でござります、あの男は別段買ひたがつてゐるわけぢやござりませんがね。

ロザ

ねえ、もし差支がないなら、其小屋や牧場や羊をお前が買つちやどうだい？ 代金はわたしたちが出してやる。

シリ

さうしてお前の給金をも上げてやります。わたしはこゝが氣に入つた。こゝに住みたい。

コリン

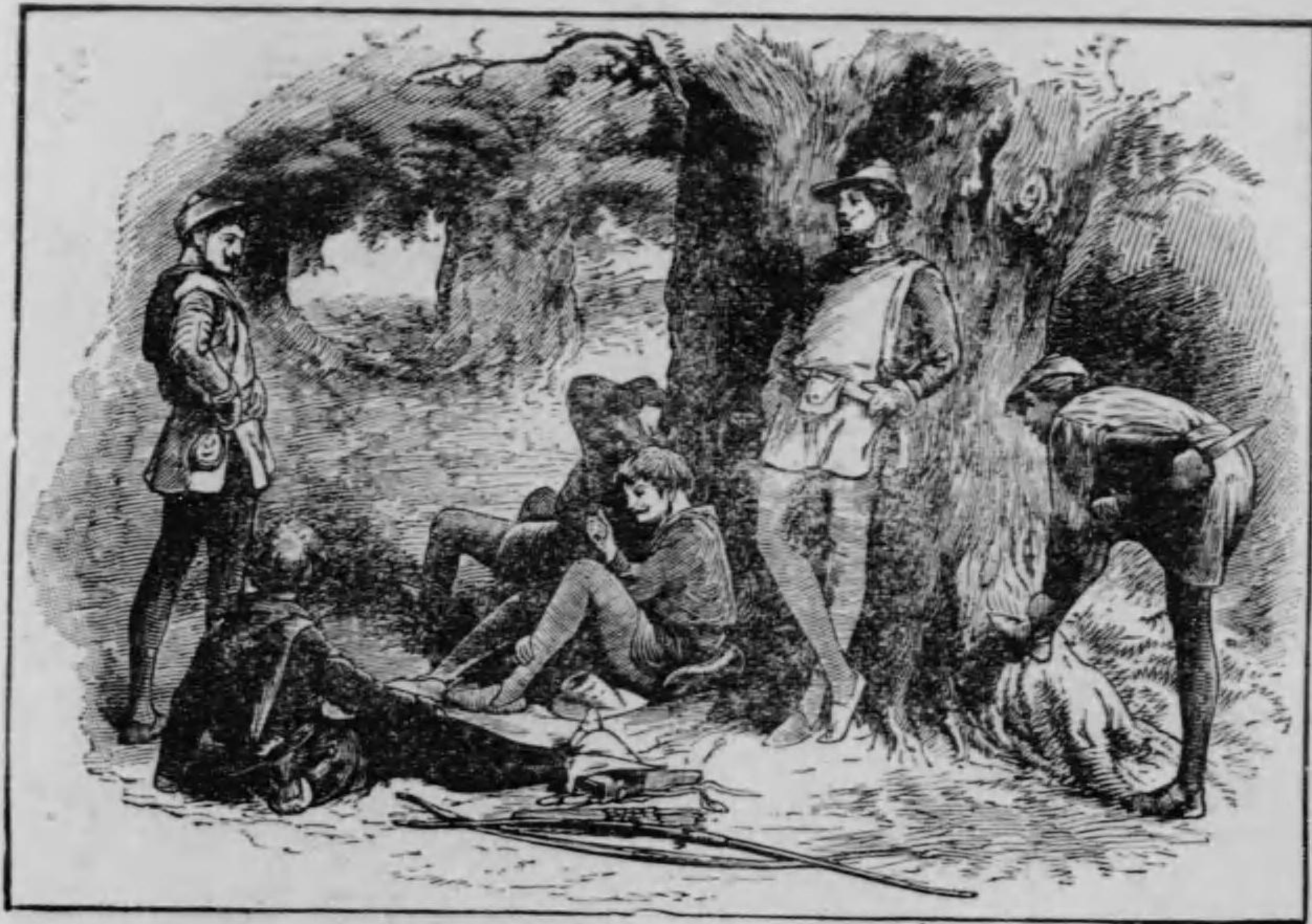
はい、大丈夫、買はれますとも。では、ござらつしやいまし。よくお査へなすつた上で、土地も収入も此生活もお氣に入るやうであつたら、すぐお金をいたゞいて買取りまして、律儀に御奉公いたしませう。

はひ入る。

第五場 同じく林中

アミエンズ、沈爵家の ジャケス 及び 其他 出る。

アミ (歌ふ)



緑なす木の下に

来りて共に臥し、

鳥の音に聲を合はせ

面白く歌うたはん人よ。

来、こゝへ、来、こゝへ、来。

こゝには敵はあらず、

敵はたゞ

眞冬のあらし。

ジャケ もつと、どうか、もつと。

アミ だつて、ジャケス君、あんまり

歌つたら、君は陰氣になるで

せう。

ジャケ けつこう。どうか、もつと。 わたしは、歌を聴いてゐると、いゝ心持に陰

氣を吸ひ出す、鼯が鶏卵を吸ふやうに。 どうか、お願ひだ、もつと。

アミ わたしは聲が悪いから、逆も君を樂しますわけにやいかない。

ジャケ 樂しまして下さいとはいはない。 歌つて下さいといふんだ。 さ、もつと。

もう一節。 一節といふんでせう？

アミ 御随意に。

ジャケ 名義なんかどうでもいゝ。 貸借關係なんかはないんだから。 歌つて下さ

いよ。

アミ ぢや、お需めによつて、いや／＼ながら歌ふかね？

ジャケ ぢや、わたしも、つひぞ禮なんか言はん流儀だか、禮をいはうか？ だが、

とかく會釋といふ奴は猿猴が二疋出つくはしたといふ格好だて。 わたし

は頻りに有難がつて辭儀をされると、はゝアおれは此男に二錢玉をやつた

かな、こいつは乞食だつけかなと思ふのが定りだ。……さ、さ、歌つて下さい。(他の者に)歌はない連中は、黙つてく。

アミ

ぢや、今のを歌つちまはう。……諸君、その間に宴會の準備をして下さい。

公爵は此木かげで召食らうといふのだ。……公爵は朝から君をさがしておいでましたよ。

ジャケ

わたしはまた朝から見つけられないやうにしてゐた。公爵は議論すきで、

困つちまふ。わたしだつて考へてゐることはいろくあるが、只自分だけで承知してゐて、自慢げに吹聴はしない流儀だ。……さ、歌つて下さい、さ。

「歌ふ(皆一齊に)。

塵の世の名利を捨て、

青天白日に、

野や森に食を求め、

それをもて足れりとせば、

來、こゝへ、來、こゝへ、來。

こゝには敵はあらず、

敵はたゞ

冬のあらし。

ジャケ

君、その節に合ふ替歌を一つ聞かせよう、昨日作つたんだ、興の來なかつたにも拘らず。

アミ

さうすりや、わたしが歌つてあげよう。

ジャケ

かういふのだ。

どこツかの馬鹿者が
いくぢなく敵に媚び、
財寶も安樂も

悉く捨てたとせば、

ダッカダミ、ダッカダミ、ダ。

こゝには智者はをらす。

馬鹿ばかり、

馬鹿者ばかり！

アミ

そのダッカダミといふのは何です？

ジャケ

これは希臘語の咒文でさ、馬鹿者どもを呼び集める時の。わたしは眠れりや眠ツちまひたい、けれども眠られなけりや、埃及の上流社會全體を罵倒してやる。

アミ

ところで、わたしは公爵をさがして來よう。宴會の準備が出来たから。

左右へ別れて入る。

第六場 同じく林中

オ、ランドー疲勞し切つたるアダムを介抱しつゝ出る。

アダム

旦那さま、もう

迎もあるかれま

せん。あゝ、ひ

もじい、くるし

い！ 世話なし

に、こゝへ埋め

て貰ひませう。



さやうなら、旦那さま。

オ・ラ おい、アダム、どうしたといふのだ！ そんな弱い氣になつちやいけ
ない。ひつこたへろ。元氣を出しなよ。しつかりしなよ。此荒れた森
の中に、何か野獸があるなら、ぶつつかつて、おれがそいつに食はれるか、
そいつを殺しておのしに食はせるかしよう。さう自分で弱ツちまつちや、
神經で死んじまふ。頼むから、元氣を出してくれ。うんとひつこたへて
くれ。おきに戻つて来るからね。何にも食ひ物を持つて來得なかつたら、
其時、勝手に死ぬがい。戻らないうちに死ぬやうちや、おれの苦勞を無
にするといふもんだぞ。…感心々々！ 元氣さうになつた。すぐ歸つ
て來るぞ。…（行きかけて）といつたもの、此寒い風に曝してもおかれま
い。…おい、どつかの木蔭へでもおぶつてやらう。（とアダムを肩に掛けよ
うとして）なア、食ふ物がない爲に死なせるやうなことはしないよ、此森の

中に何等かの生物がある以上。よ、アダム、しつかりしろ！

肩にかけて入る。

第七場 同じく林中

食卓の準備が整へられてある。前公爵、アミエンズ及び其他の
貴族ら、いづれも譚窟者らしき服装にて出る。

前公 獸類にでも化けたかな、どこにも彼れらしい人間が見附からんとところを見
ると。

甲貴 御前、彼れは、つい只今まで、こゝにをりましたのです。愉快さうに唄を
聽いてをりましたのです。

前公 調子はづれの彼れが音楽を面白がるやうぢや、宇宙の律呂が破壊される時が近づいたのかも知れん。さ、あれを捜して來なさい。わしが用があるといつたと、さういひなさい。

ジャケスいかにもをかしさうに、笑ひ顔をして出る。

甲貴 (それを見て) あつちからやつて來てくれました、おかげでわたくしは助かりました。

前公 (ジャケスに) おい、どう遊ばしたのだい！ 閣下の御臨席を乞ふために、

一同がどんなに苦勞してゐたか分らんよ！ え、愉快さうぢやないか？

ジャケ (いかにもをかしさうに) 阿呆めが、阿呆めが！ 阿呆めが森の中にもりました、斑の衣裳を着た一人の阿呆めが。……(俄に蓋面を作つて) あゝ情けない、慘な世の中だ！……全くの事です、一人の阿呆めがゐりましたよ。そいつは、横になつて日向ぼっこりをしてゐて、運命の女神を罵倒してゐました、中々旨

いことをいつて。けれども全くの阿呆なんですよ。で、わたしが「今日は、阿呆さん」とやらかすと、奴め、「いや、天が福ひを與れたまでは予を阿呆なんぞと呼ぶしやるな」と斯うです。それから奴め、巾着から日時計を取り出して、どんよりした目附でそれを眺めて、仔細らしく「もう十時だ。世の中がどう進むか、これで分る。九時であつたのはつい一時間前のことだ。もう一時間経つと十一時になる。あゝ斯うして一時々々と人間が段々熟していつて、さうして段々と腐るんだ。そこに曰くがある。」と斯ういふんです。阿呆めが物議めかして、感慨ぶつてるのを聴くと、わたしはたまらなくをかしくなつて、鶏のやうに聲を擧げて笑ひ出したんですが、奴の時器の約一時間は、笑ひが止まらなかつたのです。あゝ立派な阿呆！ 素敵な阿呆！ いや、着るべきものは斑の衣裳です。

前公 どういふ阿呆だね、それは？

ジャケ

立派な、素敵な阿呆です！ もとは御殿に奉公してゐたのです。奴は、苟も若くて美しい婦人がたならば、おのづからそれを御承知あるべきだなどといつてます。奴は、其脳髓の中に、といつても、航海中に食つたビスケットのお残りほどに干乾びきつた脳味噌の隅ッこに、不思議な観察を詰込んでゐて、そいつを時々支離滅裂のまゝで吐き出します。あゝ、わたしは阿呆になりたい！ 斑の衣裳が着たいなア！

前公

着たけりや着せてやらう。

ジャケ

それで念願が達きました。但し、以後は、わたくしを怜悯者だなんぞとおぼしめすやうな間違つたお考へを全くお捨になるやうに願ひます。同時に、勝手次第な熱を吹く自由を、風のやうな自由をわたくしにお許し下さい。それが阿呆の特権ですから。ところでわたくしの阿呆口に罹つて最も多く痛手を負ふ手合は、いつも最も濟して笑つてゐなけりやなりません

ぞ。え、なぜだとおつしやるんですか？ 其な、なぜは、村の教會堂へ行くあの「畦」程に判然と分つてゐます。といふのは、阿呆に手ひどく諷刺された時には、假令痛いと感じたからつて、わざと平氣な顔をして餘所事らしく笑つてゐるのが怜悯といふものですからね。でないとお、怜悯連の阿呆らしさが、阿呆の一寸した諷刺のお底で、却つて大げさに目立つといふわけになるんですから。斑の衣裳をわたくしに着せて下さい。勝手に思ふことを言ひ散らす特権を與へて下さい。さうすりやわたくしは此パ

チルスだらけの穢い世の中を、全然掃除して、清淨にします、みんながわたくしの苦い薬を飲んでさへくれりやア。

前公

馬鹿をいへ！ お前のすることは大概分つてゐる。

ジャケ

え、ちや、三文がたの賭をしませう。善い事以外にわたくしが何をするでせう？

前公

いたづらに罪惡を摘發するといふ最もよろしくない罪惡を犯すに過ぎない。何故といふに、お前自身がもとく放蕩者なんだ、獸類と擇ぶ所のない肉的な男だつた。だから、それは、つまり、お前の多年の放逸な、無慚な生活中に見聞したあらゆる汚ららしい社會の病弊や害毒を、露骨に世上へ吐出すに外ならんので、有害無益だ。

ジャケ

なアに、よしんば驕奢を罵倒するにしても、個人の攻撃はしません。驕奢の弊害は、大海のやうに、天下に瀾漫してゐます。苟も使ふ金のある限り、退潮にやなりません。今の町の女は、やくざな其脊中に、王女同然の高價な代物をのつけてゐるといつたからつて、決して或個人の迷惑にやなりません。一人だつて、出て来て、わたしの事を刺つたのだ、酷いといふ筈はない。あつちにもこつちにも、さういふ女だらけの時分には。どんな下等社會の者だつて、やい、此晴衣は、汝のお底で買ったんぢやアないや、餘

計な世話を焼きなさんなゝぞとはいふまい。言やア、自分からわたしの諷刺の目的物でございと名宣つて出るやうなものですから。さ、して見るとです。して見ると、どうでございますね？ わたくしの諷刺のために、どういふよろしくないことが出来ませうかね？ その諷刺が適中すれば、其人は何かわかるい事をしてゐるのです。わるい事をした覺えがない以上、わたくしがどう悪口しようと、我れ關せず焉で居られさうなものです。……おや、だれか来た？

オ、ランドー 抜劍して足早に出る。

オ、ラ

ま、待て、もう食ふことはならんぞ。

一同 驚いて立ちあがる。

ジャケ

なアに、まだ些とも食やしないや。

オ、ラ

いや、食ふことはならん、飢ゑて死にかゝつてゐる者があるから。

ジャケ

何だ、この種かはりの牡鶏めは？

前公

やい、汝は困窮のために、かやうな不敵な振舞をするのか？ 或は、まるで

作法といふものを辨へてをらんからのことか、さやうな無法なことを申す

のは？

オ、ラ

其一條の方が中つてゐる。絶體絶命の場合となつたので、作法を顧みる

に違がないのだ。もとは内地の相應の家で育つたものだ。とにかく食ふ

のをお控へなさい。此方の望みを遂げんうちに、其果物を只一つでも食

はうとする者は、斬ツちまふぞ。

ジャケ

さうむちやくちやと来ては、斬られるより外にしかたがない。

前公

何が望みだ？ 腕力を以てするよりも穩和な口上を以てするはうが、却つ

て吾々共の心を動かすであらうぞ。

オ、ラ

空腹のために餓死しようとしてるのです。食ふ物をいたゞきたい。

前公

さ、席に就いて、たんとお取りなさい。歓迎します。

オ、ラ

そんなにやさしくおつしやつて下さるか？……まことに濟みませんでし

た。實は、かういふ荒れ果てた森の中のことですから、萬事が野蠻だらう

と思つて、わざと高飛車に申しかけて見たのでした。此あまさかる荒林

中の、晝も尙薄昏い木蔭で、隙行く駒の過ぐるのを見やりもしないで暮し

ておいでのあなたがあた、若しあなたがたが嘗ては都にもお住みで、教會堂

へ人を集める鐘の音をも聞き、歴々の盛宴にも招かれ、目蓋の涙をも拭ひ

なすつたことがあつて、慈悲憐愍の何たるをも心得ておいでなさるのなら、

穩和の口上でお願ひをしても、きつと聽いて下さるでありませうから、わ

たくしは深く只今の失禮を慚入つて、早速劔を収めます。

前公

いかに、わたしたちは、都に住んでゐたものだ。また、聖い鐘の音が教

會堂へ人を寄せるのを聞いたものだ。また、歴々の宴席へも招かれ、慈

悲が醸した涙を拭つたこともあつた。だから、穏和に、静かに席に着いて、何なりと、欲しいと思ふ物を取つておあがりなさい。

オ、ラ
では、暫時お食事をお見合せ下さい。牝鹿が仔を捜して来て食べさせるやうに、わたくしも一寸往つて仔鹿をつれて来ますから。實は、一人の可哀さうな爺がゐます、全くの忠義な心から、疲れ足を引きすつて、わたくしに従つて来た奴です。まづ彼れに——老いと飢との二つの苦みで死にかけてゐる彼れに——食はせた上でなければ、わたくしは一口だつていたゞきません。

前公
おや、さがしておいでなさい。歸つて来なさるまでは、何にも手はつけま
すまい。

オ、ラ
ありがたうございます。その御深切に冥加あらしめたまへ！
と入る。

前公
われくばかりが不幸ではないのだ。此廣い世界の劇場では、われくが演じてゐるそれよりも一層あさましい場面が演ぜられてゐるのだ。人間世界は悉く舞臺です、さうしてすべての男女が俳優です。めい〜が出たり入つたりして、一人で幾役をも勤める、一生は先づ七幕が定りです。初めは誰れしも赤ん坊で、乳母の手に抱かれて、おぎやア〜といつて、涎を垂らす。その次は鼻を鳴らして泣く小學生徒。鞆をぶらさげて、起きて洗つたばかりのてらく顔をして、いや〜學校へと蝸牛のやうに歩く。その次は情人。火爐よろしくの溜息をして、其意中の女の眉附か何かを讀めちぎつた哀れな小唄を口ずさむ。それから、軍人。奇態な、猛烈を誓言が口を衝いて出る、口髭は豹よろしくで、おツそろしく體面を氣にして、喧嘩ッ早いこと此上なし、水泡のやうな名譽のためにでも随分大砲の筒口へ向つて行く。その次が裁判官。賄賂の閹鶏のお庇で、肚は

ジャケ

布袋よろしくだが、目附は閻魔大王、型にはめて刈込んだ髭、いろんな格言も知つてゐれば普通の裁判事例は何でも心得てゐて、其役者をも勤める。第六となると、痩せこけた、上草履でとぼくあるきの道外爺さんに變る。鼻には眼鏡、腰には巾着、丹念に保存したものゝ、若い時分の袴は、其衰へた脛には、滅法界もなく太過ぎる。さうして太かつた男らしい聲も今は子供聲へ逆戻りして、細々と口笛のやう。とゞのつまりの、此變な、複雑な劇の大詰は、第二の小兒と變つて、一切空に歸するのです、すなはち無しづくし、齒なし、目なし、味覺なし、何にもなし。

— オ、ランドー半死のアダムを介抱しつゝ出る。

前公

さ、さ、其爺さんをこゝへおろして、物を食べさせなさい。

オ、ラ

彼れのために、厚くお禮を申します。

アダム

さうおつしやつて下さい。(公爵に)自分ではお禮を申すだけの口さへきゝか

ねます。

前公

さ、さ。たべなさい。身の上の事なんかも聴きたいが、まアそれは後にしよう。……何か音楽を奏してくれ。(アミエンズに)なう、何か歌ひなさい。

アミ

(歌ふ)。

吹けよ、吹けよ、冬の風、

恩知らぬ人ほどに

なんぢは酷くはあらず。

なんぢの牙は利からず、

目に見えざれば、

吐く息は荒れれども。

さらば歌へ、緑り葉の柊を！

愛も虚偽、友垣も虚偽ぞかし。

第三幕

第一場 新公爵の館の一室

新公爵フレデリック 貴族ら及びオリヴァー 出る。

新公 その後會はん？ おい、そんな筈はない。おれが寛大であればこそだが、でなかつたら、行方不明の弟の代りに汝を誅戮して、當座の腹癪をしかねないぞ。さ、注意して、さがし出して來なさい、どこに潜んでゐようと。夜を日に繼いで探して來なさい。生死は問はんが、十二ヶ月以内に

オリ 彼れを引立て、來んに於ては、汝は此國にをられんと思ひなさい。汝が自分の物と稱してをる土地も何もかも、苟も取上げるに足る限りのものは悉く沒收してしまふぞ、汝の身に係る嫌疑を弟の口供によつて、辯疏し得ない以上は。

新公 お、それはあんまりなお沙汰でございます！ 手前はつひぞ弟めを可愛いなんぞと思つたことはございませぬのに。尙わるい。さ、こいつを門外へ追ひ出せ。其筋の役人どもに命じて彼れの家、屋敷、領地等を押收する手續をさせろ。早くしろと申しつけて、彼れを放逐しろ。

入る。

第二場 アーデンの林中

オ、ランドー、林人の服装をして、手に一葉の紙片を持ち出て出る。やがて木の幹にそれを釘附にすることある。

オ、ラ

おれの作つた歌よ、そこに掛かつてゐて、おれの切なる戀の證據人になつてくれ。(と天を仰いで)それから、夜の女王と崇めるお月さん、あなたは、其清浄な目で以て、其天上の蒼い圓座から、わたしの一生を支配しさうなあの女獵師の名を読みおろしてゐて下さい。……お、ロザリンド！……此邊の木どもをば、おれの手帳代りにして、其幹へおれの思ふことを刻み附けておかう。此森の中にゐる限りの者の目が、到る處で、お前の淑徳が讚美してあり證明してあるのを見るやうにするために。さ、走れ、オ、ランドー。一本々々の木毎に、あの美しい、淨らかな、逆も言葉には言ひあらはせないあの人の名を刻みつける。

と走りつゝ入る。

老牧羊者の コリンとタッチストーンと出る。

コリン

タッチストーンさん、此田舎ぐらしが氣に入りましたかね？

タチ

さア、田舎ぐらしといふ點からは頗る結構だがね、農夫生活といふ點からはつまらないね。閑静だといふ點からは氣に入つたがね、寂しいといふ點はいけないねえ。田園生活といふ點は面白いが、御殿の生活振と違ふといふ點でくさくさするよ。くらしの質素なのはわたしの心持にしつ

くりだがね、物が豊富でないので、どうもお氣に召さんね。……時に、何か、君の心得てる浮世の教訓てなものを聴きたいねえ。

コリン

別段心得てることもございませぬがね、先づ、だれでも病氣になればなるほど體も心も術なくなりませ。それから、金も、財産も、満足もなくなつちやア、それは三つの最も善い友達をなくしたんでさ。雨の本來は物を濡す、火の本來は物を焼く。牧場がよければ羊が肥る。夜の暗い第一の



原因は大陽がなくなるからで
さ。それから、生得の智慧が足
らん上に、人力で智慧を授かると
いふこともせなかつた人達のは、
それは多分、驍がない人か、血統
がよくない人かであらう、てなこ
とを心得てゐるくらゐのもので
さ。

タチ これこそ自然の哲學者だ。…君
御殿にゐたことがあるかい？

コリン いゝや、ございません。

タチ ちやア駄目だ。地獄へ墮ちるぜ。

コリン いゝや、極樂へ行かれる積りです。

タチ 駄目々々。焼き損ひの鶏卵同様、お駄佛々々々！

コリン 御殿にゐなかつたからかね？ そのわけは？

タチ だつて、御殿にゐなかつた以上、行儀作法なんか見たこともあるまい。行

儀作法を見たこともないものは亂暴狼藉な振舞をするに相違ない。亂暴

狼藉といへばわるいことだ。ところでわるいことをすれば地獄へ墮ちる。

爺さん、お前は逆も助からないよ。

コリン とんでもないこつた。御殿で好い作法になつてるとだつて、田舎へ持つ

てくれば馬鹿々々しくなりまさ、田舎ですることを御殿へ持つて行きやア

をかしいやうにね。いつうか、お前さんが、御殿ちやア、挨拶するに、大き

な聲をしない、手を骨め合ふといはつしやつたつけが、そいつは穢からう、

田舎でやらかしたら。

タチ といふのは？ さ、その證例は？

コリン だつて、わしらは常住牧羊を扱つてるんでさ。奴らの毛皮は脂肪で以てにちやくしてまゐる。

タチ だつて、御殿の人の手だつて汗を掻かうだらうちやないか？ 羊の脂肪と人間の汗と、どう異ふい？ 淺薄々々！ もつと上等の證例を出したり。さ。

コリン それに、わしらの手は硬いやな。

タチ 硬ければ唇ざはりが速くつて、尙可い。淺薄！ もつとしつかりした例を。さ。

コリン それに、羊の疵療治をするから、樹脂なんか手へばりついてますだ。

お前さま、樹脂を嘗め合へといはつしやるかね？ 御殿の人たちの手は麝香なんかで佳い香ひがしてさうだに。

タチ おやく、淺薄な男！ ロースや鞍下に比べるとすると、肉は肉でも、お前

なんかは腐つた切出したよ！ 智者に教へを聞いて、自分のいつたことをよく考へて見な。麝香は樹脂よりも下等なものだぜ。ありや猫の糞だよ。……やりなほしく。

コリン お前さまの御殿仕込の口前にや迎も叶はないから止めだ。

タチ ちや、駄目のまゝで止めかい？ 地獄へ墮ちる氣かい？ やれ、淺薄な男だ！ 神さま、どうか截開を仰せ附けられませ！ ちつと鈍血を抜かないことにや人間並になりさうにない。

コリン (ふくれて) もし、わしは正直な労働者でございます。わしは食ふ物も儲ける、着る物も儲ける、だれの怨みも買はない、だれの幸福も羨まない、他人が益を得れば喜びます、自分が損をしたのは斷念めます。わしの第一等の自慢は、たのしみは、牝羊どもが草を喰ふのや仔羊どもが乳を吸ふのを

見てることだ。

タチ

それがまた一つのわるいことだ。牡と牝をつるませたりなんかして生計を立てるていのは。鬩羊の慶菴になつたり、牝に馬鹿にされてる羊にやつと一年子の小羊をおつつけたり、酷いことをする。其罰でさへも地獄へ落ちないとすると、悪魔も羊飼ひだけは願ひ下げにするてなこともあるんだらう。逃れッことはないわけだからね。

コリン

(一方を見て) あそこへガニミードさまがござつた、わしの新しい旦那さまのお兄さまの。

ロザリンド、前の場の如く男装して出る。オ、ランドーが歌を書き附けた紙片を、来る道の木の幹から剥ぎ取つて來たらし、それを讀みつゝ、出る。

ロザ

(讀む)。

東の端より西印度に及ぶも、

ロザリンドの如き寶玉はあらず。

彼女のめでたさは、風に駕して、

世界中にロザリンドの名を傳ふ。

上なく美しく畫かれたる女の像も

ロザリンドに比ぶればいと醜し。

何者の面をも心に止めおく勿れ、

ロザリンドの美しき面の他は。

タチ

そんな阿呆駄羅文句でよけりや、八年間、おつ通しにも製りつゝけて御覽に入れるよ、もつとも、食ふ間と眠る間とだけは別だが。まるで牛酪賣女が、ぞろ／＼揃つて、朝市へお出かけといふ句調だ。

ロザ

(睨んで)馬鹿が!

ロザリンドの如き寶玉はあらず。

タチ

一寸見本を。

若し牡鹿にして牝鹿を欲せば

彼れをしてロザリンドの後を追はしめよ。

若し牡猫の其配を求むるあらば

すべからくロザリンドをこそ求めしむべし。

冬の衣は裏を要す、瘦せた姫將た然り。

刈る者は束ねて縛るを要す、

而して後にロザリンドと共に車に。

いと甘き果實にいと酸き皮あり、

ロザリンドは恰も然らん果實ぞ。

なつかしげなる薔薇を手折らん男は

戀の刺に逢ひ又ロザリンドに逢ふべし。

かういふのはがたくい調といふんだ。：：あんたはどうしてそんな穢い歌
を持つてゐるんですり。

ロザ

馬鹿、お黙り！ 木に懸けてあつたのを取つて来たんだ。

タチ

いかさま、こゝらの木には下等な物が生りますねえ。

ロザ

其木へお前を接いで、それから枇杷を接がうよ。さうすると、それが此邊

での此上もないお先ツ走りの果實になるだらう。お前は——枇杷は只さ

へ早く腐るんだから——まだ半分も熟さないうちに腐つちまふだらうか

らね。

タチ

感心。けれども、感心に旨いのか不味いのかは此森に批判させることに

しませう。

シリヤ紙片を手を持ち、それを讀みつゝ出る。

ロザ

しッ！ あそこへ妹も来た、何か讀みながら。（マッチストーンに）そつちへ

寄つといで。

シリヤ(讀む)。

などて此あたりを荒地とは呼ぶ?

人の往來絶えたらばか? あらず。

われ言の葉を木毎々に掛けん。

いみじき訓への言葉を示さん、

或は、人生はいともみじかし、

世の旅は正に走るがごとし、

隻掌能く全生の幅を掩ふと。

或はまたいと固くも結ばれぬる

友垣の破れにし事に就きて。

就中最も麗しき枝々には、

もしくば一語々々の終りには、

われわがロザリンドの名を書きおかん、

讀む限りの者に、天が此縮圖中に示したまへる

あらゆる精靈たちの粹を知らせんために。

蓋し天は、之が爲に、造化に命じて、

一個人の身神内に

すべての圓滿美を集めさせたまひにき。

こゝに於て造化は諸ろの精粹を抜きぬ、

先づヘレンの芳頬より、而も其心は取らず。

次にはクレオペトラの尊嚴より、

更に又アトランタの最長所より

及び彼の眞摯なるルークレシヤの温淑より。

かくしてロザリンドは、種々の素によりて、
あまたの面、あまたの目、あまたの心より、
もろくの神の神ばかりにて

無上の褒譽を博すべく造られたり。

天は彼女にかゝる美德を有しめられぬ、

あはれ、われは、彼女の奴なつて死なん爲に生きん。

ロザ お、やさしらしい説教師！ お、村の聴衆に、長い／＼戀の説教を聴かせながら、「諸君どうか御辛抱」とさへもいはないのね、お前さんは！

シリヤ (二人を見て) ま、どうしてたの！ いつ歸つて来て？……(コリンに) 爺さん、少しあつちへ往つてとくれ。(タッチストーンに) よ、お前も一しよにお往き。

タチ (コリンに) さ、さ、お爺さん、名譽の退却をしようよ。輜重一切を車に載せて、ではないが、小ちやい袋をお手々に持つてだ。

シリヤ (ロザリンドに) 此歌を讀んで？

ロザ え、／＼、讀んだとも、讀み飽きたほどよ。その筈さ、中には、語數も脚の數も、定格以上に多い歌があるんだもの。

シリヤ 脚の數の多いのはよいぢやないの？ 歌の意味をよく運ぶでせうから。でも、其韻脚は大抵片ちんばだつたから、意味を運びかねて、句が跛引いて

ひきましたの。

シリヤ それはさうと、あなたの名が此邊の木に幾らも／＼書いて懸けてあるのを不思議だとは思ひでなくつて？

ロザ さア、もう九日の七日分ぐらゐは不思議がつてゐたのよ、あなたのいらつしやる前に。なぜなら、御覽なさい、棕櫚の木に懸けてあつた此歌を。わたしはピサゴラスの時以來こんな歌に作られたことはないわ、——あの時分はわたし愛蘭士の鼠であつたつけが、もう殆んど覚えてちやゐないわ。

シリヤ だれがしたのだから、御ぞんじ？

ロザ 男でせうか？

シリヤ 頸に鎖を掛けてませう、もとあなたが持つてた金鎖を。おや、顔の色が變つてよ！

ロザ ねえ、だあれ？

シリヤ おゝ！ 思ひ合つた人達が首尾よくめぐり逢ふといふとは中々むづかしいことよ。けれども大地震で以て大きな山が取除けられて、それで廻り逢ふといふことも随分あるわ。

ロザ よう、だれですてば？

シリヤ ま、ほんとに不思議よ！

ロザ ねえ、後生、お願ひ、よう、をしへて頂戴よ。だあれ？

シリヤ おゝ、ほんとに〜〜、こんな不思議つたらありやしないわ？ けれど

ロザ もほんとに不思議よ、どうもかうも言ひやうのないほど不思議よ！

まア！ あなたは、わたしが男の装をしてゐる以上、心の中まで細袴仕立になつてゐると思つて？ もう一寸がた躊躇いていらつしやると、南洋發見航海以上の大々の報告をしなけりやならなくなつてよ。ねえ、どうぞすぐ知らせして下さい、よう、早くさ。其人の名をいふには、お酒が口の細い塚からちびり〜出るやうに、吃り〜言つてくれればいゝねえ。言はないでもなし、さうかといつて、突と言ッちまふのでもなく。よう、口の栓をお抜きなさいね。よ、其知らせが飲みたいからさ。神さまのお製へになつた人？ どんな様子の人？ 帽子の似合ふ頭の人？ 髭の似合ふ顔附の人？

シリヤ いゝえ、髭はほんの少うし。

ロザ なアに、髭なんかは今に神さまがお生やしなさるわ、殊勝にしてれば。わ

たし髭はどうでもいゝわ、願のはうを知せて下さりや。

シリヤ オ、ランドーさんよ、あの力士をしよひなげにすると一しよにあなたの心をもひっくり返した人よ。

ロザ 人を！ 戯談いひっこなし。よう、眞面目に、正直におつしやいよ。

シリヤ ほんとに、あの人よ。

ロザ オ、ランドー！

シリヤ え、オ、ランドーよ。

ロザ あら、どうしよう！ こんな男の装をしてるんだもの！ あの方何してゐて、あなたが逢つた時？ 何と言つてたの？ どんな顔してゝ？ どんな装をしてゝ？ どうして此處へ來たの？ 聞いて見て下すつて？ 今どこにゐるの？ 何てつて分れたの？ いつまた逢ふの？ すぐ一口でいつて下さい。

シリヤ 一口でいふには、巨人性とかいふお化の大きな口でも借りて來なけりや言へないわ。わたしの齡の者の口には満り過ぎてよ。あなたの問ひに一々然り否をいふのはお宗旨問答に答へるよりもむづかしいわ。

ロザ あの方わたしが此森にゐて、男の装をしてることを知つてゝ？ お相撲を取つた時とおなじに、元氣な顔をしてゝ？

シリヤ ま、戀人のいふことに一々答へるのは微塵を算へるよりも骨が折れてよ。どんな風かはあなた自身でお検めなさい、わたしは逢つた時の生のまゝをいふから。木の下に落ッこちてた榿實のやうに横になつてゐたのを見附けたの。

ロザ その榿の木をジョーヅの樹と呼びませう、そんな立派な榿實を落ッことですんだから。

シリヤ (戯れて、鄭重に)ま、どうか、暫らくお聴取下さいまし。

ロザ (同じく氣取つて) さ、申せ。

シリヤ その木の下に、大の字形になつて、手を負つた勳爵士のやうに横になつてゐましたの。

ロザ さぞ痛はしく見えたでせう。けれども背景が佳いから、好い畫面だわ。

シリヤ 其舌を叱つて下さい、話の腰を折つてしやうがないから。…獵師のやうな装をしてゐたの。

ロザ お、怖い！ わたしの心を射殺しに來たのだわ。

シリヤ あらまた調子をはづさせてよ、お囃子なんか入れさせないで歌ツちまはうと思つてるのに。

ロザ だつて、わたし女でせう？ 思つたことは言はずにやをられないわ。…さ、あとを、さ。

シリヤ わからなくなツちまふわ。…(二方を見て) ちよいと！ あの人が來たのぢ



やなくつて？

オ、ランドーとジャケスと話しながら出る。

ロザ (同じく見て) さうよ。隠れてゐて

見ませう。

二人退る。

ジャケ 御同伴下すつて有りがたう。だ

が、實は、獨りでゐたはうがよかつたんだ。

オ、ラ わたしとてもです。けれども、

世間の習慣上、御同行を謝します。

ジャケ 以後お心易く。成るべくお目に

かゝらんやうにしたい。

オ、ラ

どうか此後は御別懇を願ひたくない。

ジャケ

どうか今後は、木の幹の綺麗な處へ、戀歌なんぞを汚らしくお書きつけない
さらんやうに。

オ、ラ

どうか今後は、下手々と拾ひ讀みなんかして、折角の歌を臺なしになさ
らんやうに。

ジャケ

君の戀人の名はロザリンドかね？

オ、ラ

さやうです。

ジャケ

氣に入らない名だね。

オ、ラ

親御が名を附けた際に、君の御機嫌を取らうとは思はなかつたさうです。

ジャケ

丈は高いかね？

オ、ラ

わたしの胸あたりまではありません。

ジャケ

中々旨い答を貯へてるね。金細工の妻さん連に知合が多いかなんかで、

オ、ラ

それであの手合の指輪の銘て奴を暗記してるといふわけかね？

ジャケ

ぢやアないよ。けれども、君が繪招牌式で間を掛けるから、こつちも同じ

オ、ラ

式で答へるのさ。

ジャケ

君の舌は中々機敏だ。アタランタ姫の踵で出来てるのだらう。さ、一し

オ、ラ

よに掛けないかね？（と木の根へ腰をおろして）二人で此惨な世の中を罵倒して

ジャケ

やらうぢやないか？

オ、ラ

わたしは自分以外の者を罵らうとは思はない。自分が一等よくない。

ジャケ

戀なんかするのにはよくないね。

オ、ラ

よくないかも知れんけれど、君の一等よい行ひとも取換ッこはしたくない

ジャケ

ね。君とはもう物はいはない。

オ、ラ

さうく。わたしは阿呆めを捜してゐたんだ、君に逢つたあの時。

オ、ラ 阿呆は河へ落ちて死んだよ。覗いて御覽、見えるでせうよ。

ジャケ のぞきや、おれの影が映るだらう。

オ、ラ それが即ち阿呆だ、でなきや零だ。

ジャケ おれはもう君とは一しよにゐない。さよなら、戀の専賣屋さん。

オ、ラ お名残をしからず存じます。さよなら、悲觀専門先生。

ジャケス 入る。

ロザ (シリヤに) わたし生利な馬丁といふ呼吸で物をいひかけて、からかつて見ま

せう。……(オ、ランドーに) おい、獵師さん!

オ、ラ はい。何か御用ですか?

ロザ ねえ、何時でせう?

オ、ラ 森の中にや時計はありません。何時なんて判然分りっこはありません。

ロザ ぢや、森には眞正の戀人はゐないと見える。ゐりや一分毎に溜息をして、

一時間毎にうん／＼唸る筈だから、時器がなからうと、時刻の徐くさく經つのをちやんと算へ通してゐさうなものだ。

オ、ラ なぜ駈々と經つ時刻といはないのです? さういつても可いぢありませんか?

ロザ い、や。時の歩みの遅い速いのは人によつて異ふ。だれとは時が悠然と歩み、だれとは地靴を踏み、だれとは駈けツくらをし、だれとは停立ツちまふかを話さうかね?

オ、ラ 地靴を踏むのはだれとですか?

ロザ 若い娘とですね、いよく婚禮と定つてから、其日が来るまでの間の時です。それがたつた一週間であつても、いよくまでに七年もかゝるやうに當人には思はれるんです。だれとは悠然と歩みますか?

ロザ

ラテン語の讀めない僧さんや持病に痛風のない富豪とです。一方は書が讀めないから樂々と眠られます。又一方は痛み所がないから毎日陽氣に暮らす。一方には、人を癩させて精根を疲らせる學問といふお荷物がないし、一方には、重い、じれつたい貧乏といふお荷物がなから、時が、樂さうに、ゆつたり／＼歩きまわります。

オ、ラ

で、時が駈ツくらをする相手は？

ロザ

絞罪臺へ引張られて行く盜賊です。どんなに徐々と歩く積りでも、時のはうで駈足をしてるやうに、奴自身は思ふのです。

オ、ラ

時が立止ツちまふ相手は？

ロザ

休課中の裁判官連です。其間は全然眠てばかりゐますから、てんで時を経つのを御ぞんじなします。

オ、ラ

君は何處にお住ひです？

ロザ

あの娘と一しよにゐます。妹です。此森の、いはゞ女袴の縁飾てつたやうな隅つこに住んでゐます。

オ、ラ

こゝの生れですか？

ロザ

え、ちやうど南京鼠が生れた處に住んでるやうにね。語調は如是な片田舎の人のやうぢやありませんね。

オ、ラ

折々人にさういはれるんです。實は、わたしの叔父に當る僧さんが――

ロザ

若い時、内地にゐたんですが――それが物の言方を教へてくれたんでした。叔父は數寄者でした、風雅人といふ意味でも、色事師といふ意味でも。

オ、ラ

戀愛を慎めといふお説法をよくやらかしたもんでした。幸ひにわたしは女と生れなかつたから、叔父が婦人全體の大弱點であるやうにいつてゐた戀愛なんか憚まされるやうなことはありませんや。

オ、ラ

婦人の大弱點だと叔父さんがいつてなすつたことの中で、主なのは何でし

た？

ロザ

主なのツてはありませぬね。みんな、二錢銅貨がお互ひに似てるやうに、似たりよつたりでさ。一つだけ聞きや滅法界もないやうだが、其次のを聞きや、それもまた滅法界もないのです。

オ、ラ

ねえ、一つ二つ話して下さい。

ロザ

いや、御免です、病人になら薬も與りませぬね。現に此森の中にも一人の病人がゐるま、若木の幹へもつてつて、「ロザリンド」と女の名を刻みつける男がゐるま。山檻に戀歌を書いて懸けておいたり、木莓に哀れつぽい文句をぶらさげたりします、どれもく「ロザリンド」といふ女を崇拜してたらしい文句なんです。あゝいふ戀愛師に出つくはしたなら、一番意見してやらうと思ふんでさ、たしかに戀わづらひをしてゐるのらしいからね。

オ、ラ

それはわたしです、全く戀わづらひをしてるのです。どうぞ療治して下さい。

ロザ

君の顔には、ちつとも叔父のいつたやうな症候が見えてゐないよ、叔父は診察法を教へてくれたんだけどね。戀の捕虜なぞになつてる人とは見えないね。

オ、ラ

で、その症候といふのは？

ロザ

まづ、頬が削ける、ところが、君はさうでない。次に目が凹んで縁が青くなる、君はさうでない。髭は長び放題、君はさうでない、と言つたもの、君の髭は、本來が末つ子の収入といふ程度だから、これは君の罪ぢやないね。それから、細袴の紐は解け次第、帽子の額巻は剥れ次第、袖口の鈕釦は脱れ放題、又靴の紐も結ばず、其他、何もかももうツちやりばなしの、だらしない様子がなくちやアならんのだが、君はさうでない。君の身装

は整然としたもんだ、自分の事を忘れツちまつて、他人の事を思つてばかりゐる人のやうぢやアない。

オ、ラ あゝ、どうかして、實際戀をしてゐるのだといふことをあなたに信じて貰ひたい。

ロザ わたしに？ わたしに信ぜしめることが出来りやア、君が戀してる其婦人にも信ぜしめることが出来るよ。その女は必然ぢきに信するよ、口ぢや何といはうとも。今日びでも、女といふ者は、其點だけは、良心に背いて嘘をいふもんだよ。それはさうと、實際君かい、いろんな木へもつてつて、ロザリンドを歎美する妙な歌を引掛けるのは？

オ、ラ さうです、全く。ロザリンドのあの雪のやうな手に掛けて誓ひます。わたしです、不幸なわたしです。

ロザ だがね、實際戀愛してるんですか、あの歌の通りに？

オ、ラ 歌にも論にも言ひ盡されるやうなんぢやありません。

ロザ 戀人て者は全く狂人同然の者さね。だから暗室に押込めて、狂人とおなじに、撲り附ける必要があるんです。けれども大抵はそんな目には逢はせないで以て療治することになつてゐるのは、つまり、此病氣はあんまり有りふれてゐて、撲らうとする其常人までが、とかく此病ひにや罹つてゐるからだ。だが、わたしはね、説諭して治さうと思つてます。

オ、ラ だれかを今までに治したことがありますか？

ロザ 一人だけあります。ま、こんな風に。其男に、假にわたしを其相手の女だと思はせることにしてね、毎日わたしを口説きに來させたのです。ところで、わたしは氣まぐれな悪戯者だからね、或時は悲んで見せる、或時は女らしくやさしくする、或時は心變りもする、待焦れもする、好いても見せる、或は高ぶる、ふざける、悪戯をする、淺はかにも見せる、或は浮氣らしくも

する、ぼろ／＼と涙を落す、にこ／＼と笑ふ。喜怒哀樂、何もかもやつて見せるが、どの情も心底からといふのぢやアない。まづ、男も女も、若いうちは、大概そんな風のもんです。で、今は好いてるかと思ふと、すぐ嫌ひになる。今はちやほやしてるかと思ふと、すぐ跳ねつける。今は泣いてるかと思ふと、すぐもう唾を吐きかける。といのつまり、其わたしの相手の男は、氣ちがひめいた戀から眞性の氣ちがひになつちまつて、もう／＼浮世は捨てたといつて、僧さんになつて、山へ籠つちまひましたよ。それで以て戀わづらひは治つた。其同じ療治法を君の肝の臓にも試つて見ようぢやないか？ それを、健全な羊の心の臓同様、ちよつぴりとでも戀の痕なんかないやうにしてあげるよ。

オ、ラ
治して貰ひたくない。

ロザ
わたしや治したいねえ、わたしを假にロザリンドと呼んで、毎日わたしの

小屋へ来て口説いて下さりやアそれで可いんだ。

オ、ラ
ぢや、さうしませうか？ 君の家は何處です？

ロザ
一しよに來たまへ、案内するから。其途々、君の此森での居どこをも聞かう。行きますか？

オ、ラ
行きますとも。さ、お若衆さん。

ロザ
いゝえ、ロザリンドさんとお呼びよ。……さ、妹行かうよ。

第三場 同く林中

タッチストーン 躍り跳れるやうにして、田舎娘 オードリーの手を引きながら出る。ジャツケス 少し後れて出て、木かげにて様子を見てゐる。

タチ さ、早く。山羊はおれが飼つてやるよ。え、これさ、どうだ、え？ え、オードリー？ (得意さうに) して見ると、まだ是れで好男子かな？ こんな顔色でも好いたらしいかい？

オー (解しかれて) え、がんしよくだつて！ はれま！ どんながんしよくだね？

タチ かうしておのしと山羊共との間におれがあるのは、あの昔の變妙來な詩人のオギッドて男が、山羊よろしくの野蠻人の國へ流し物になつたて格だ。

ジャケ (傍白) おやく、とんでもない比較だ、ジョーヴ神が茅屋根へ天降つたといふほどに不釣合だ。

此間 オードリーは果物をむしやくと食つてゐる。

タチ (洒落オードリーに通じないので、大げさに歎息して) 折角の名句が理解されなかつたり、折角の洒落が犬死したりした時ほど情けないことはないね、安宿へ泊つて大旅館並の勘定を取られるよりも情けないや。……ほんとになア、



オー 神さまがお前をもう少と詩的に生み附けといってくれりやよかつたに！
 してきてのは何のことだね？
 嘔吐かんでことかね？ 正直
 てことかね？

タチ いんにや。正直でこつちやアない。何故つて、およそ詩的でもない。佳い詩ほど虚ッばちだらけのものだ。戀人は兎角詩を作る。詩にかこつけて言ふことは、みんな嘘ッばちだ

つて可いんだからなア。

オー それでわしを神さまが詩的に生み附けりやよかつたとお言ひかね?

タチ さうだ。お前はおれに、何もかも正直に言ふと言ふだらう。そこで。若

しお前が詩人だつたなら、あゝは言つたものゝ、ありや嘘だらうと折々は思ふことも出来るんだが。

オー ちや、正直はいけなにかね?

タチ いけない、お前は顔が綺麗だからなア。綺麗な上に正直であつて見な、そ

ら、美にして貞なりだらう。それちやア砂糖に蜜といふもんだ。あんまり過ぎらア。

ジャケ (傍白) 阿呆め、中々あちを言ふ!

オー だつて、わし綺麗でないわよ。だから、せめて正直者になつてゐたいわよ。

タチ いかさま、みつともないお引摺どのに、正直なんて結構な物をくれてやる

のは、薄汚い皿へ凝つた料理を盛るやうなもんだからなア。

オー わしはお引摺ちやアないわよ、みつともない顔だからつて。

タチ みつともないだけで、先づ澤山と思つてるがいゝ。お引摺にやア何時で

もなれるから。それはともかくもとして、おれはお前と結婚するよ、そのために隣り村のオリブ・マーテクスさんを頼み込んでおいた、けふ此

處へ来てくれて、おれたち二人の式を行つてくれる筈だ。

ジャケ (傍白) こりや是非見たいものだ。

オー どうぞ神様お守り下さい!

タチ アーメン! 若しこれが氣の弱い男であつたら、實行を躊躇するかも知れ

ない。こゝにや林があるきりで、お宮もなけりや、角の生えた奴等の外に會衆らしいものも居ないのだからなア。けれども關つたことはない。勇

氣を出せ! 角と聞くと氣になるが、要するに、止むを得ないもんなんだ。

古語に曰く「古川に水絶えず」、「さる人々には飽迄盡きぬ利福の種」と。
 その通り。とかく亭主には角盡きずだ。爲方がない。婢の御持参品だ。
 自分で製造するんぢやない。角が生える？ 如何にも。下等社會ばかり
 かい？ どういたしまして。最上等のお歴々の鹿どのにも瘦ッぼちの鹿
 同様の素敵な角が生える。だから、獨身者は幸福だといへるかい？ い
 んにや。城壁で嚴重に固めた市府のほうが並の村落よりは結構であるが
 如くに、女房持の角の生えた額のほうが、獨身者の素額よりもすつと結構
 だ。防禦準備のあるほうが、まるで無いよりも優な如く、角のあるほうが
 それのないよりも優だ。……(一方を見て)オリブーさんが來なすつた。
 田舎牧師士爵オリブー・マーテクト出る。
 オリブー・マーテクトさん、ようこそ。此木の下ですぐやつてくれます
 か？ 或はお堂まで行きますか？

牧師

婦人を與れるお人はござらつしやらんのかね？

夕子

え、貰ふなんてそんな不見識なことアわたしは嫌ひだ、結婚するのに。

牧師

い、や、與れる役をする人がなければ、結婚の式は成立たんことになりま
す。

ジャケ

(木かげからつかつかと進んで出て)さ、さ、式を御執行なさい。わたしが其役を勤
めようから。

夕子

(ジャケスに)や、今日は、何とやらさん。(仔細らしく)お丈夫ですか？ よいと
ころでお目にかゝりましたね。先日はまことにどうも。いや、圖らずお

目にかゝつて、恐悦至極です。え、なに、ほんの些細な内訟事なんで。さ、

どうかお帽子をお召しなすつて。

ジャケ

妻君を娶らうといふんですか？

夕子

牡牛には輓馬には手綱、鷹には鈴、ちやうどそれとおなじに、男には女

房ほが附つき物ものです。鳩はとでさへ嘴くちばしを突つつき合あはせますからね。

ジャケ だが、都會とくわいで育そだつた君きみが、こんな藪やぶの中なかで、宿無やどなしのやうに、式しきを舉あげるでもあるまい。えう、教會けうかいへ往いつて、十分婚禮せんこんらいの何なにたるかを心得こころえてゐる僧そうさんを頼たのんだらよからう。あの(とマーテクストへ思入おもひいをして)男をとこなんかは、まるで羽目板はめいたでもおツつける氣きで君たちを一しよにしようとするのだ。こんな風ふうにして一しよになると、すぐに生木なまきの歪ひずむやうに反返そりかへつて、又またばらくになツちまふよ。

タチ

(傍白)おれは、どつちかといふと、此僧このほうそうさんに結婚けつこんさせてもらつたはうが可いいのだ。といふのは、此僧このほうそうはどうせ本式ほんしきにはやらないんだから、後あとになつて、婢かみを追おひ出ださうて時に、いゝ口實こうじつが出来るからだ。

ジャケ

さ、一しよにおいで、忠告ちゅうこくすることがある。

タチ

さ、さ、オーブリー、來きなよ。…さよなら、オリブリーさん。(歌ふ)。

おゝ、わがいとしのオリブリー、

おゝ、わがいみじのオリブリー、

われをば見みすてたまふな。

ではないや。

行きね、疾とく、

去きりね、疾とく、

おぬしのお世話せわにはならじわれは。

と歌うたひつゝ、タッチストーン、オーブリー、ジャケス、入いる。

牧師 (舌打したをして) なんのことだ。もう二度とあゝいふ馬鹿者ばかものども共にちやうさい坊ぼうにされるこつちやアないぞ。

入いる。

第四場 同じく林中

ロザリンドとシリヤと出る。

ロザ (ひどく萎れて) もう何にもいつて下さるな。わたしや泣きたい。

シリヤ お泣きなさいね。けれども涙といふものは男には似合はないものだといふことをお忘れなさるな。

ロザ だつて、泣かすにをられますか?

シリヤ 悲しいのは御もつともよ。だからお泣きなさい。

ロザ あの人の髪の毛はどうも浮氣者らしい色をしてるわ。

シリヤ ジューダの髪の毛だつてあの人のほどあゝ赤褐色には晝いてないわ。き

ロザ つとあの人の接吻なんかは虚偽の塊りよ。

シリヤ いゝえ、あの人の髪の毛の色は佳い色ですわ。

ロザ いゝ色ですとも。栗色ほど好い色はありませんもの。

シリヤ あの人の清浄な唇は姪姫さんから買つて来たのです。ウィンター(嚴冬)宗の尼達の接吻だつてあの人のほどに神聖ではないのです。氷のやうに清浄なのだから。

ロザ 今朝来ると約束しておきながら、なぜ来ないのでせう?

シリヤ きつと不眞實な人よ。

ロザ あなた然う思つて?

シリヤ えゝ。まさか巾着切とも馬どろばうとも思やしませんけれど、戀の眞實

といふことだけは、あの人は、底の深い盃ほどに、又は蟲の食ッちまつた胡桃ほどに、空洞だらうと思ふわ。

ロザ 不眞實？

シリヤ え、戀をすりや。けれどもまだ戀をしちやゐないやうだわ。

ロザ だつて、眞實わたしを戀してゐたとあの人が誓言したのをあなた聽いてゐたぢやないの？

シリヤ 「ゐた」と「ゐる」とは異ふわ。

それに、戀人の誓言は酒店の給仕人の口でする勘定以上には確實ぢやなくつてよ。両方とも出鱈目をいふんですから。あの人は此森でああなたのお父さまにお仕へしてゐるさうです。

ロザ

その父にわたし昨日逢ひまして、何かと話をしましたの。父が、わたしの身分はと訊きましたから、あなたと同等の身の上の者ですといつたら、父は笑ひ出して、もう歸つてもいいといひましたの。ですが、お父さんの事

なんかお互ひにどうでもいゝぢやなくて？ オ、ランドーさんのやうな人がゐて見れば。

シリヤ

ほんとに立派な人ね！ あの人は歌も上手に作るし、辯舌もいゝし、誓言も立派にするし、さうしてそれをまた立派に破りもするわ、而も眞二つにさ、相手の胸を横裂にするやうにして破るのよ、まるで下手くその騎士が槍の仕合をするとして、只一方へばつかし暗雲に馬を突走らせて、突當つて、見事な馬鹿者らしく、手槍をぶち折つてしまふやうに。とにかく若氣さがさせたり、馬鹿げさがさせたりすることが上手よ。……(一方を見て)だれか来たわ！

コリン 出る。

コリン

もし、お嬢さま、旦那さま、先だつて、わたしと芝地で話をしてゐたあの戀わづらひをしてゐる羊飼男のことをお尋ねなさいましたつけが、——そ

れ、あの、高慢かうまんちきな村むらの女をんなのことを、さげすまれながら、ほめちぎつてゐましたあの羊飼ひつじかひのことを。

シリヤ

その羊飼ひつじかひがどうしたといふの？

コリン

もしか心こころから思おもひ込んで蒼あをざめるほどになつてゐる者とそれをさげすんで嫌きらつて高慢かうまんな赤あかい面つらアしてゐる者とがして見みせるお芝居しばるを御覽ごらんなさらうといふのなら、ちよつぱりお出でかけなさいまし。御案内ごあんないします、御覽ごらんなさる

氣きなら。

ロザ

ロザ

お、ぢや、往いつて見みよう。

戀人こひびとたちの姿すがたを見みるのは、戀こひに惱なやんでゐる者ものの

慰なぐさめになる。その場處ばしよへつれてつとくれ、わたしは其芝居そのしばるの仲間なかま入いりして、

狂言廻きやうげんまわしをしよう。

入いる。

第五場 同じく林中

シルギヤスとフィービーと出る。

シルギ

フィービーさん、嫌きらひなさんなよ。よう、頼たのむからよ。好すかないなら好すか

ないでもいゝけれど、そんな酷ひどいことをいひなさんな。人ひとを殺ころすのを商

賣ばいにしてゐる首斬くびきりやく役やくでさへ、罪人ざいじんが覺悟かくごして首くびを差延さしのべると、斧おのを振下ふりおろす

前まへに、詫言わびごとをいふさうだ。人殺ひところしを役目やくめにしてゐる者ものよりも酷ひどい心こころを持もつ

かねあんたは？

ロザリンド、シリヤ、コリン 出でて、様子ようすを窺うかがふ。

フィー

わたしや首斬くびきりやく役やくなんかにやなりたくないわよ。だから逃にげるわよ。お前まへ

さんに害を興へたくないからさ。わたしの目がお前さんを殺すとおいひだね。成るほど御もつともよ、さうもありさうなことよ。一寸埃が入つてさへ、臆病にあわて、戸を閉めるやうな、脆い、かよわい目のこつたからね、人を苦めたり、殺したりしさうなことよ！ ちや、今、わたしが、一生懸命にお前さんを睨んでよ。若し此目に痛手を負はせる力があるなら、今こそお前さんを殺し得るだらう。さ、氣絶する真似をして御覽。さ、ぶつたふれて御覽よ。それが出来ないうなら、お、嘘も好い加減におしよ、わたしの目を人殺だなんて！ さ、どこへどんな手傷を負はせましたよ、わたしの目が？ ちよつと針で突ついたらつて疵の痕は残るわ。葦へ凭れてゐてさへ、葉を壓しつけた痕が掌に暫くは消えない。けれども斯う熱と睨んだわたしの目は、お前さんにどういふ怪我をもさせないぢやないの？ またさせる筈もないのさ。

シルギ

お、フィービーさん、どんなこつてあんたが——しかも近いうちに——あの綺麗な若い男の人に逢つて、戀といふもの、力を思ひ知る時があるかも知れない、若しさういふことがありや、その時にや、戀の鋭い鎌はどんな目に見えん痛手を負はせるものか、分るだらう。

フィー

ちや、その時が来るまでは、傍へおいででない。その時が来たら、たとわたしを馬鹿におしな、氣の毒がらないで。ま、それまでは、お前さんを氣の毒がるわけにはいかないのよ。

ロザ

(進んで出て、フィービーに) どういふわけで、そんなに慳貪にするんです？ 君は一體どういふ女だ、氣の毒な男を頭くだし一氣に罵倒して好い氣になつてゐる君は？ よしんば多少縹緞がい、からつて——かう見たところ、寝る時に蠟燭が要らないといふほどの赫かしい顔でもないやうだが——多少うつくしいからといつて、そんなに威張つて酷いことをいふ必要はない

ぢやないか？ え、どういふわけだ、なぜさうわたしの顔を見詰めるんだね？ 君は、わたしには、造化が賣物にする竝の人間だとしか見えんよ。

フィービー 此間、ロザリンドの顔ばかり見詰めてうつとりとなつてゐる。

(シリヤに) おやく／＼、あの女はわたしの目を生捕りにしようとするのらしい！……(フィービーに) 駄目だよ、高慢屋さん、わたしを生捕らうとしたつて駄目だよ。そんなインキ色の眉毛やそんな黒い絹絲よろしくの髪の毛やそんなガラス玉のやうな目の玉やそんなクリーム色の頬べたぐらゐぢやわたしの心を君の脚下に拜跪させることは出来ないよ。……(シルギヤスに) 君も馬鹿だねえ、なぜあの女の後を追ひ廻るのだ、霧澤山の南國ぢやあるまいし、溜息の風の吹き通し、涙の雨の降り通しといふ風には？ 君のはうがあの女より千倍も立派だぜ。君たちのやうな馬鹿者が、とかく不器量な

子供をどし／＼製造するんだ。あの女を自惚れさせるのは鏡ではなくつて君だ。君がほめ立てるもんだから、あの女が鏡を見た時よりもずつと立派だらうと思ひ込むんだ。……(フィービーに) おい、娘さん、身の程を知らな、そこへ膝を突いて、斷食でもして、結構な人に慕つて貰ふお冥加を天に感謝するが、い。内證で忠告してやる、買手があるうちに賣りなよ。何處でも賣れるといふ代物ぢやないよ。此人に詫びて、いふことを聴いて、此人を可愛がるが、い。見つともない癖に高慢だと、それこそ一等見つともない。さ、若い衆、此女をつれて行きな。……さよなら。

フィービー お若衆さん、ねえ、一年もつゞけて、さういつて叱つて、下さい。わたしはあの人に口説かれるよりもあなたにさうして叱られてゐたいわ。

ロザ あの男は君の見つともない顔に惚れたんだが(といひさして、シルギヤスらを見かへり)あの女は怒鳴つてゐるわたしに惚れたらしい。若しさうなら、あい

つがお前に苦い顔を見せるたんびに、わたしは尙手ひどく怒鳴つてやらう。……(フィービーに)なせさうわたしを見るんだ?

フィー 憎く思はないからさ。

ロザ おい、わたしに惚れるのはお止しよ。わたしは酒の上の誓言以上に當にならん男だからね。それに、君はわたしは好かない。わたしの居どころが知りたけりや知らしとくが、それはすぐあつちの橄欖の木かんらんの澤山たくさん生えてる處だ。……妹、往かうか? ……若い衆、うんと口説いて見な。さ、妹。……娘さん、威張らないで、やさしくしてやんなよ。目はだれにでもあるが、あの男ほど藪呪みの男はない。さ、羊のそこへ往かう。

ロザ リンド、シリヤ、コリン 入る。

フィー 亡なくなつた田園詩人さんでんえんしじん(マローローをいふ)、今日けふになつて初めてお前さんの名文句の偉いえらのを知つたわよ。「真まに戀せし者もの、たれかは只ただひとめ一目見て戀こひざ

りし?」

シル フィービーさん……

フィー (しばらくして)え、何とかいつて?

シル フィービーさん、可哀さうだと思つて下さい。

フィー シルギヤスさん、まことに濟すまなかつたわね。

シル すまなかつたといつて下さるやうぢや、頼たのもしい。戀こひ焦こがれてゐるのを見て、すまんとおいひなのなら、どうぞわたしを可愛かあひがつて下さい。さうすりや、わたしは助たすかるし、あんたも氣きが濟すむといふもんだから。

フィー 可哀さうだと思つてよ。深切しんせつでしよ。

シル ぢや、夫婦ふうふになつて下さい。

フィー そりやあこぎよ。……シルギヤスさん、あんたを厭いやな人だと思つてたのはもう過去くわてになつたけれどね、まだ愛あいするといふ程ほどにはなつちやゐないよ。

けれどもあなたは戀の話がうまいから、今までとは違つて、これからは、あなたと始終話をしもしようし、何かと頼むこともあるでせう。けれど頼れるといふことだけで満足して、それ以上の報酬を求めてはいやよ。

シル
わたしの戀は全くの清い戀なんだから、戀ひに飢ゑ凍えてゐるんだから、落穂ほどの愛想でもいつて貰へば、大きな收穫は、たとひ他に取られてしまつても、たんまり刈入れをしたやうにも思ひませう。時たまでいゝから笑ひ顔を見せて下さい。わたしはそれで生きて行きます。

フィー
あなたは今までわたしに物をいつてたあの若い人を知つてゝ？
シル
よくは知らないけれど、折々逢つたことはある。あの人はお爺さんの地主さんから家と牧場とを買つた人だ。

フィー
あの人のことを尋ねたからつて、わたし惚れてるんでも何でもなくつてよ。怒りッぽい小僧ッ子ねあの人。でもうまいわねいふことが。だけ

れど口前なんか何になるものか？ でも聽いてゐて氣持のよくなるやうな口前はわるくないわね。ちよつと可愛いとこのある男だわ。大してぢやないけれど。おそろしく威張つてるわね、でも、それが似合つてよ。立派な男になりさうね。一等いゝのはあの顔の色よ。いふことは憎らしいけれど、顔を見ても、憎らしいのを忘れッちまふ。丈はあんまり高かアない、けれども齡にしちやア高いはうだわ。脚はまア人竝のはうだけれど、ま、けつこうよ。唇の眞赤だつたこと！ 頬べたに交つてゐた色よりもずつと濃ツて艶があつて、本紅とダマスク薔薇の紅白雜色ほどの差ひがあつてよ。ねえ、シルギヤスさん、若しかどつかの女が、今わたしがしたやうに、細アかにあの人を見ようもんなら、あぶなくあの人に惚れるでせうよ。けれどもわたしは惚れもしなけりや憎みもしない。どちらかといへば、惚れるよりか憎むはうが當然よ。だつて、あの人何のわけもなくつ

ジャケ でも、愁然として口をつぐんでゐるのはいゝもんです。

ロザ それぢや榜示札になるのもいゝことになる。

ジャケ わたしの沈鬱は學者のとは異ふ、あれは嫉妬だ。音楽家のともちがふ、あれは空想だ。廷臣のともちがふ、あれは倨傲だ。軍人のともちがふ、あれは功名心だ。法律家のともちがふ、あれは政略だ。婦人のともちがふ、あれは氣むづかしいのだ。情人のともちがふ、あれは以上一切を引ツくるめたものだ。わたしの沈鬱はわたしの特有だ、いろんな物からいろんな要素を抜き集めて來て製したもので、つまり、多年の旅行中に得た種々の瞑想を追憶する所から生じた一種風がはりの沈鬱なのです。

ロザ 旅行家ですか！ ぢや、沈鬱にお成りなさるのも尤だ。他人の地所を見

に行くために自分の地所を賣飛ばしたお仲間でせう。さうしていろんな地所を檢分に及んだ代りに、囊中は無一物、すなはち目は大きに富んだが、

手はすツてんぐといふわけ
せう。

ジャケ さやう、いろんな經驗をしまし
たよ。

ロザ で以て沈鬱家になつたのです
か？ わたしは經驗のお庇で、沈
鬱込むくらゐなら、阿呆を相手に
馬鹿を爲盡して愉快になりたい
ね。おまけに、わざわざ旅行まで
するなんて！

オ、ランドー出る。

オ、ラ お、御機嫌よう、ロザリンドさ



ん!

ジャケ (それを見て) ぢや、もうお暇だ、御機嫌ようだ、君がさういふ白をいふ段となつたら。(と行きかける)

ロザ (わざとオ、ランドーの来たのに気が附かぬらしく装つて、ジャケスに) さよなら、旅行家先生。舌足らずのやうな口のき、やうをして見慣れない服を着て、自分の國の長所を貶し、なぜこんな國に生れたか、なぜこんな顔附に自分を生みつけてくれたかと神さまで呪ふが可い、でなきや、君が伊太利で遊山船に乗つたとは信じないよ。……(ジャケス入る)。おや、オ、ランドーさん、一體君は何處へ往つてゐたの? それで以て戀人なのかい! 二度とこんな違約をするんなら、もう逢はないよ。

オ、ラ ロザランドさん、たつた一時間おくれたばかりですよ。

ロザ え、たつただつて? 戀の約束の一時間をたつたつて! 只の一分を千

に割つた其只一つ分だけの時間をだつて、戀の約束上で破るやうな男は、キューピットにほんの肩を一寸叩かれた程度の戀の手負で、心の臓はてんで無傷でせうよ。

オ、ラ どうも濟まなかつた。

ロザ いゝえ、そんなに緩漫してるのなら、もう逢ひません。わたし蝸牛に戀をしかけられたほうが優だから。

オ、ラ 蝸牛に?

ロザ さうさ、でんく蟲にさ。彼奴は緩漫いけれども、家を脊負つて歩いてゐる。あなたは多分あれだけの物はくれやしまい。それに、頭に男の宿命を載けてゐる。

オ、ラ といふのは?

ロザ 角のことさ。あなた、ちが妻君から頂戴する筈の物を。だが、初めツカ

ら準備してかゝつてゐるから、自然と豫防にもならうといつたやうなわけさ。

オ、ラ 淑女は角なんか製造しやしない。わたしの大事のロザリンドさんは淑女です。

ロザ といふのはわたしのこつてせう？

シリ (此時横合から口を出して)あの方は假にあなたをさう呼んでゐるものゝ、もつと綺麗なロザリンドさんが他にあるのよ。

ロザ (浮かれて)さ、さ、わたしを口説いて御覽、けふはわたし上機嫌なんだから、諾といひさうよ。さ、何といはうとするの、わたしがあなたの眞のロザリンドであつたらう？

オ、ラ 先づ物をいふより先に接吻します。

ロザ いゝえ、まづ物をいつたはうがいゝね。いふことがなくなつて困つたら、

キツスするがいいでせう。 演説上手も絶句すると唾をする。 戀人も絶句

したら——最上等のてれかくしはキツスよ。

オ、ラ 若しそれを拒絶されたらう？

ロザ すれば、どうぞと歎願する段取になるだらうから、そこに自ら言ひ草の種が出来る。

オ、ラ 焦れぬいて戀人の前へ出ながら、言ひ草がなくなつて手持無沙になるなんてことがあるでせうか？

ロザ ありますとも、わたしが其婦人であれば。で無きやわたしは餘ッほどの蓮ツ葉よ。

オ、ラ え、ちや、わたしの願ひは叶はないでせうか？

ロザ いゝえ、長居は御随意です、けれども願ひは叶ひませんといひますの、わたしが。わたしはロザリンドでせう？

オ、ラ 假に君をさう呼ぶのさへ嬉しいのです、あの人の噂をしてゐたいのが山々
ですから。

ロザ で、わたしはその人に代つて、「いやですよ」と斯ういふ。

オ、ラ すると、真正正銘の其當人のわたしは、焦れて死んじまふ。

ロザ いゝや、代人をお使ひなさいよ。開闢以來もう六千年にもなるだらうが、つ
ひぞまだ當人自身が死んだてことはありませんよ、戀のために。トロイ
ラスは希臘人の棍棒で腦髓を叩きみじかれて死んださうです、けれども其
以前に、戀愛關係上、死んでもいゝ破目になつてゐたのです。あれなん
ぞが戀人の一標本です。リヤンダーなんぞも、あれが熱くてたまらない
土用の夜中になかつたら、ヒーローが尼さんにならうがなるまいが、平氣
でもつと長生してゐたでせう。先生は、つまり、暑くてたまらなかったので、へ
レスポントで海水浴をしてゐたんです、と急に痙攣が來て、溺死したんで

す。それを昔の間抜けな傳記家がセストスの尼僧ヒーローの爲に死んだ
と思つたのです。けれどもみんな嘘です。人間は昔から死んでは蛆に食
はれ、死んでは蛆に食はれたけれども、一人だつて戀の爲に死んだもの
はありやしません。

オ、ラ 眞のロザリンドさんには、そんな料簡でゐて貰ひたくない、なぜなら、あの
人が憎さうに睨んだりなんかすりや、わたしは殺されつちまふから。

ロザ 何の、睨んだぐらゐで蠅一疋だつて死ぬものか！ だが、これから氣を變
へて、どうやら靡きさうなロザリンドさんになるからね、何なりと要求し
て御覽、諾といふから。

オ、ラ ぢや、ロザリンドさん、わたしを愛して下さい。

ロザ はい、年が年中でも。

オ、ラ で、良人にして下さるか？

ロザ はい、二十人分でも。

オ、ラ え、何ですつて？

ロザ あなたは善良でせう？

オ、ラ その積りです。

ロザ ちや、善良な代物は餘計に仕入れても損はしないでせう？ さ、妹、お前さん牧師の役をして、わたしたちを結婚さしとくれ。オ、ランドーさん、手を。……え、妹、どう？

オ、ラ (シリヤに) 式を行つて下さい。

シリヤ わたし文句を知らないわ。

ロザ まづ初めに、「オ、ランドーよ、卿は……」

シリヤ 分つてよ。……オ、ランドーよ、卿はこれなるロザリンドを妻とせん心なりや？

オ、ラ はい、さやうです。

ロザ だが、いつ？

オ、ラ 今です。式が済み次第に。

ロザ ちや、あんたは斯ういふのよ。「ロザリンドよ、われは卿を妻としてめとつたり」と。

オ、ラ ロザリンドよ、われは卿を妻としてめとつたりッ。

ロザ 「とつた」ツて？「捕つた！」とおつしやる前に、先づ逮捕状をお示し下さい。といったものゝ、わたし、あなたを夫に取りますわ。……おや〜！牧師さんよりも娘さんのはうがすつと足が早うございます。女の思想は常に實行に先だつのが定りですからね。

オ、ラ すべて思想は先へ〜と飛びます。翼が生えてますから。

ロザ そこで夫婦になつたら、どのくらゐの間一しよにゐる積り？

オ、ラ 永久に、只の一日も遺さず。

ロザ 「只の一日」とおいひ、「も遺さず」だけは餘計よ。いゝえ〜。男は言ひ寄る時だけが春で、夫婦になつちまふともう冬です。娘でゐる間は五月の花時のやうだが、夫持になると同時に、忽ち空模様が変わるのです。わたしは嫉妬を焼きますよ、バーバリー産の雄鳩が牝鳩を焼くやうに。怒鳴りますよ、雨に逢つた鸚鵡のやうに。それから尾無し猿よりも珍らしい物を欲しがり、野猿よりも氣が變り易いでせうよ。噴水盤のあのダイヤナの像のやうに故もなく涙を瀧のやうに流すでせう、而もあなたが愉快がつてる最中に。かと思ふと、鬣狗の啼聲のやうな聲を出して笑ふでせう、あなたが眠たがつてる耳の傍で。

オ、ラ 眞のロザリンドさんはまさかそんなぢやあるまい。

ロザ いゝえ、きつとわたしのする通りにするでせう。

オ、ラ お、でもあの人は伶俐ですから。

ロザ さ、伶俐であればこそさういふことをするのです。伶俐なものほど我儘なものです。女の智慧を閉込んでごらん下さい、窓から飛出します。窓を閉めて御覽、鍵穴から出る、それを止める、煙突から煙と一しよに飛出します。

オ、ラ そんな見當のちがつた智慧を有つた女を妻にしたものこそ、流行言葉の

「智慧さん何處へ？」を始終口にしてゐなけりやなるまい。

ロザ いゝえ、そんな口のわるい言ひ草は、其妻君の智慧が、だれかの寢床へさまよつて行きさうになつた時分にこそ、お言ひなさい。

オ、ラ さまよつて行つたのを若し見附けたら、女は何と答へるでせう？

ロザ あなたを捜しに來たのだといふでせう、啞でない以上、女でうまく分疏をし得ない者はありやしません。わるい事をしておいて、それを反對に夫

の故にし得ないやうな女に子供を育てさせりや阿呆にしッちまひます。

オ、ラ 時に、ロザリンドさん、これから二時間ばかりあつちへ往つて來ますよ。

ロザ あら、あなた、二時間なんて、そんなに長い間、いやアよ。

オ、ラ 公爵の御宴席に列しなけりやならんのです。二時になりや又來ます。

ロザ (ひそつて) はい、ぢや、勝手になさい、勝手になさい。そんなだらうと思つ

てました。(泣き相になつて) みんながさういつてたの、わたしもさう思つてた

の。うまい口前で以て煽て、諾といはせておいて。たかゞ一人の人間

の捨てられ者が出來たんだ。死んじまふからいゝわ。

と泣く。オ、ランドー心配して介抱する。と忽ち笑ひ出す。

オ、ランドーやつと安心する。

ぢや、二時間待つの？

オ、ラ えゝ、さうです。

ロザ ぢや、誓文、眞實、神かけて、其他さしつかへのない限りの誓言によつて、若

しかあなたが此約束をちよつぱりともお破りだと、一分だつても時刻を

おくれさせると、わたしはあなたを非常に情けない破約者、非常に虚喝の

戀人、逆もく、ロザリンドとかお呼びの其婦人なんぞには釣合はない不眞

實の骨頂男だとしますよ。だから、わたしの此言葉をよく覚えてゐて、

約束をお守りなさい。

オ、ラ あなたが眞のロザリンドであつても、此上はないといふやうに忠實に守り

ます。

ロザ 時はすべての不埒者を審査する裁判官です。時に試験させませう。さ

よなら。

オ、ランドー入る。

シリヤ あなたは酷いわ。今の問答の中で、さんく、女の事をわるくお言ひだつ

たわ。あなたの其の装を引めくつて、此鳥めは自分の巢を自分で突つき
毀しましたと、わたしいはなけりや承知しなくなつてよ。

ロザ お、あなた、よう、察して下さいよ、よう、よう、よう！ わたしの此戀の
深さはどのくらゐ深いか、何十尋深いか知れたものぢやなくつてよ！ 底
が知れないのよ、ホルテュガルの灣のやうにね。

シリヤ てんで底がないのでせう、戀しいといふ心が流れ込むと一しよに、つうと
抜けつちまふんでせう。

ロザ い、え、わたしの戀がどのくらゐ深いかは、あのギーナスさんの悪戯ッ兒
に判断して貰ひます、懣懣が胎を下し、むら氣が孕ませ、狂氣が生ませたあ
の目ないの、自分が見えないもんだから、人をも盲にするいたづら小僧に。
ねえ、エリエナさん、わたしやどうしてもオ、ランドーさんの顔を見ず
はをられないのよ。わたし、どこかの木蔭へ往つて、あの人か歸つて來る

シリヤ まで、溜息ばかりしてゐませう。
ちや、わたしは居眠りしませう。

入る。

第二場 同じく林中

ジャケス、貴族ら、獵師ら射殺した鹿を携へて出る。

ジャケ 此鹿を殺したのはどなたです？

甲貴 わたしです。

ジャケ (一同に)ちや、あの先生を、羅馬の凱旋者よろしくといふ風にして、公爵の許
へ連れてゆきませう。勝軍の標章に、鹿の角を頭に載けたらよからう。



獵師、何か相當した歌はないか
い?

獵師
ございます。

ジャケ
歌つてくれ。節なんかどうで

もい、賑かできへありや。

獵師
(歌ふ)。

鹿を射とめて何をか得た

る?

斑毛皮に二本の角を。

さらば家路へ歌もろと

もに。

(みなくこのはやしことは
皆々此囁子言葉)

(だけを同音に歌ふ)。

角を戴ぐともおさげすみあるな。
生れぬ前から身に附いた飾り。

おぬしの父さも其又父さも

おぬしの父さも戴いだ角よ。

角よ、角よ、あな面白の

角を笑ふな、さげすむ勿れ。

入る。

第三場 同じく林中

ロザリンドとシリヤと出る。

ロザ まア御覽なさい！ 二時は過ぎツちまつたでせう？（すれて）オ、ランドー
さんが何人も來てることね！

シリヤ （とぼけて）こりやきつと、戀ひしい餘りの憂さはらしに、弓と矢を持つて、出
掛けて行つたのでせう——晝眠でもしに……（二方を見て）あら、だれか來
てよ。

シルボヤス 出る。

シル お若衆さま、あんたへのお使ひに參りました。フィービーさんがこれをお
渡し爲てくれといひました。何が書いてあるかわし知りませんけれど、
それを書いてた時に、こはい顔をして焦々してゐましたから、荒つぽい
ことが書いてもありませんけれど、こらへて下さいまし、わし何にも知ら
ないで使ひに來たのでございますから。

ロザ （讀みつゝ）忍耐其者だつてこんな手紙を受取りや、こらへかねて怒鳴るだら

うよ。これが忍耐が出來りやどんなことだつて忍耐が出來る。彼奴はわ
たしを見つともない男だの、無作法な男だの、威張り返つてるの、よしんば
男が鳳凰ほどに世の中に少なからうとも、逆もわたしを愛するとは出來な
いの、なんのといふ。馬鹿なことだ！ あいつに好かれなかつて關ふ
もんかい？ なぜこんなことをいつてよこしたのか？ あゝ、分つたよ、
若い衆、こりや君が製作へて來た偽手紙だらう。

シル とんでもない！ 何が書いてあるかわし些も知りやしません、全くフィー
ビーさんが自分の手で書いたんで。

ロザ おい／＼、馬鹿だねえ、君はもう戀の斷崖へ來てるよ。わたしはあれの手
は見たよ。革のやうな、砂石色の手だ。右手袋を穿めてるかと思つたら、
それが手だつた。賄女の手だ。が、それはともかくも、此手紙は彼れが書
いたんぢやないね。男の智慧で男の手で書いたもんだ。

シル いゝえ、あの人が書いたのです。

ロザ だつて、亂暴な、残酷な文句だ、喧嘩口調だ。わたしに喰つてかゝつてる、土耳其人が基督教徒に喰つてかゝるやうに。女のやさしい心でこんな鬼のやうな、黒ン坊の女のいふやうな腹の中は更に又黒さうな文句なんか々思ひ附かれる筈はない。讀んで聞かせようか？

シル へい、どうぞ、それはまだ些も聞いちやゐませんから。常住酷いことばかり言はれつけてゐますけれど。

ロザ わたしに向つてもそれをやつてるんだ。ま、此酷たらしさをお聴き。(讀む)。

姿を牧羊者とやつさせたまへる神にてや在す、少女一人、君のために、心をも身をも焦し候ふ。

どうだ此怒鳴り方は？

シル それが怒鳴つたのでございますかね？

ロザ (又讀む)。

なにとて、神にて在しましたながら、斯くばかり賤しき女の心を惱ましめたまふぞ？

こんな酷い悪口をいつた女があるだらうか？

わらはを慕ひて絶えず打守る人の目も候ひしかど、未だ曾て其目には動かされ候はざりしが、

わたしを獸類だといふんだ。

君のうるはしき御目のさげすみは、わらはの胸に戀の焰を燃しそめ候ふ。あゝ、あの御目のやさしく見えまさん時しもや、いかなる不思議の力を持ち候はんすらん！ 罵り叱らせたまへる折にだに戀ひしまつり候ふを、若しもや乞ひ禱りたまはん時にはいかならんすらん！

此戀書を御許に持ち行けるをのこは、わらはの斯くも戀ひまつれるをばつゆ知らず候ふ。いなやの御返言は彼れに託したまへ。あはれ、うら若き君の心よ、わらはの此誠を、わらはの心づくしを受けたまひてよ、然らずば、此者に言づて、否とのたまはせ、たゞちにも死なん術を考へ定め候ふべく候ふ。

シル
それが叱つてるのでございますかね?

シリヤ
ま、可哀さうな若い衆!

ロザ
可哀さうだといふの? 可哀さうなことはないよ。……おい、お前、こ

んな女が可愛いのかい? え、お前を馬鹿にして、道具に使つて、勝手な熱を吹くやうな女を。もう忍耐が出来ない! さ、歸つて往なさいあの女のところへ、——お前は戀のために骨抜になつちまつてゐる、——さうして斯うあの女においひ。若しわたしを可愛いと思ふならば、お前を可愛がれ、

若しお前を可愛がらなければ、わたしは彼れのいふことは決して聽かない、お前が彼れの爲に懇願しない以上は。お前がほんとの戀人なら、早く、何にもいはないで、歸つて行きな。また誰れだか來たやうだから。

シルギヤス 入る。

オ、ランドーの兄、オリヴァー 旅装にて出る。

オリ
お早うございます。御存じならば、どうかお教へ下さい、此森はづれの、

橄欖の木で生垣が出来てゐる羊小屋といふのは、どの邊でございませう?

シリヤ
こゝから西です、すぐあちらの谷間です。楊柳の並木のあるちよろしく

流れを右に見ていらつしやると、そこへ出ます。けれども、今はみんな留守ですよ、だアレもありません。

オリ
(二人をつくく見てゐた) 聞いたことが見る目の助けになるものなら、服装はかやうく、年配は云々だと噂に聞いた所によつて貴下がたをお見知り申

すべきです。「其少年は女かとも思ふうつくしい容貌で、兄といふよりも姉といふ風采、丈の低い方のは其兄さんよりも色が黒い」云々といひました。あなたがたが、今おたづねした羊小屋にお住ひのかたでせう？

シリヤ

自慢さうにお答へするほどぢやありませんが、さうです。

オリ

わたしはオ、ランドーに頼まれて参りました、ロザリンドさんと彼男が呼んでゐる其お方に、此血の附いた手巾をお渡し爲てくれといひました。

あなたですか？

ロザ

はい。で、こりや、どうしたのです？

オリ

まづ、自分の恥を申さねばなりません、わたしが誰れであるか、どうして、なぜ、又どこで其ハンケチがそんな風になつたかをお知らせしようといふには。

シリヤ

さ、どうぞそれを。

オリ

オ、ランドーは、先刻、あなたがたに、一時間後にはきつと戻つて來るとお約束をして、お別れして、戀の甘い又苦い空想を味ひつゝ、森の中を辿りやつて行きましたところ、とんだことが起つたのです！ 彼れが何心もなく、ふと傍を見ると、ま、何がそこへ現れたとお想ひです？ 解の根がたに、幾千年と年を経て、枝は苔蒸し、梢枯れのした解の根がたに、惨な髪も髭も延び放題の、襪褌を着た男が仰向けに眠つてゐて、其頸筋には青い、金ぴかりに光つた大蛇がぐるぐると巻附いてゐて、鎌首を鋭く働かせて、ちやうど今、其男の開いてゐる口を目がけて飛び附かうとしてゐるところだつたのです。けれどもオ、ランドーが近づいたので、急にづるづるとうねり出して、忽ち叢の中へ這ひ込んで行つてしまつたさうです。と、其叢には、尙別に、乳房の乾き切つた一疋の牝獅子がゐて、其頭を地上に附けて、猫が鼠を覘ふやうに身構へをして、眠てゐる男が、若しも身動きしたな